「はちプロ学生部 2024」活動報告書

作成者：特定非営利活動法人はちろうプロジェクト　事務局長　鎌田　洋平

【事業概要】

八郎湖や環境教育に関心を持つ有志大学生を集め、八郎湖での体験、環境に関する講座などの活動機会を提供・交流するためのグループ。2016～2018 年度、秋田県立大学や秋田公立美術大学の有志学生と、八郎湖再生をシミュレーションするゲーム教材「はちリバ～HACHIRO REVIVAL～」を開発したことをきっかけに、2019 年度から取り組み始めた。現時点では県内大学生が中心だが、基本的には関心を持った学生なら誰でも受け入れている。

〔参加学生数の推移〕

2019 年度：メンバー11 人、参加延べ人数　―　（記録なし）
2020 年度：メンバー12 人、参加延べ人数 52 人
2021 年度：メンバー19 人、参加延べ人数 111 人
2022 年度：メンバー31 人、参加延べ人数 98 人
2023 年度：メンバー31 人、参加延べ人数 123 人
2024 年度：メンバー39 人、参加延べ人数 304 人

2024 年度は国際教養大学のメンバーも加わり、本格的な活動を行っていく 1 年となった（2023 年度末に加入）。コミュニケーション能力の高い学生が多く、他大学のメンバーや地域住民などとの交流の場において特に活躍してくれた。また、同大学の名取洋司准教授の協力を得て、八郎湖旧湖岸の“自然共生サイト”認定を目指した活動を始めることにもつながった。

もう一つの新たな取り組みとして、オンライン定例会を実施した。これはオンライン会議を活用し、当法人会員や学生部メンバーで定期的に集まって学習会や企画会議等を行って様々な意見を吸い上げようとする試みだった。参加者が一部に偏ったことは課題だが、学生部メンバーが積極的に参加し、若者の意見や提案が集まった。今後の学生部はこうした意見を活かし、八郎湖を通して環境や地域の課題についてより具体的・実践的に考え、行動できる若者が育つ場にしたい。

【2024 年度「はちプロ学生部」の主な活動】

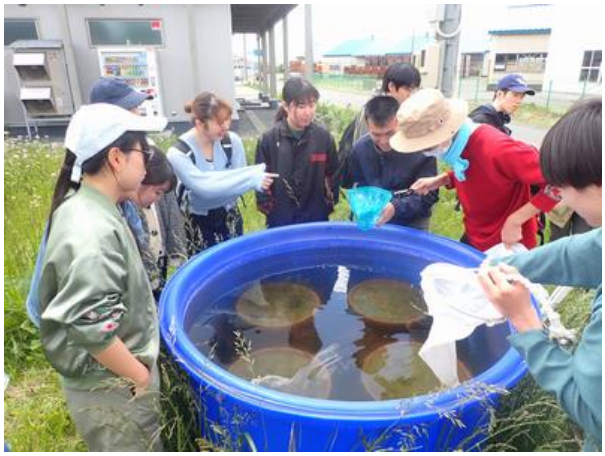
No.	実施日	活動名	参加メンバー人数	活動概要
1	4/11(木)	第 1 回オンライン定例会	5 人	話題「八郎潟モグリウム・八郎湖　見学＆交流会について」
2	4/19(金)	御所野学院高校・はちリバ	1 人	OG でもある学生に、出前講座のプログラムをサポートした。
3	4/20(土)	八郎潟・八郎湖学研究会・谷口吉光氏講演	1 人	講演 「八郎潟・八郎湖の未来を求めて」にメンバーが参加。
4	4/25(木)	第 2 回オンライン定例会	10 人	話題「はちプロ学生部 2024　メンバー顔合わせ」
5	5/9(木)	第 3 回オンライン定例会	8 人	話題「津田啓仁（学生部メンバー）　オランダ視察レポート」
6	5/13(月)	国際教養大学・モグリウム設置	3 人	大学にモグリウムを設置した。教養大生 2 名、県立大生 1 名が参加。
7	5/20(月)	秋田公立美術大学・地域プロジェクト演習	4 人	今年度の「地域プロジェクト演習」で行う活動内容を説明した。
8	5/23(木)	第 4 回オンライン定例会	10 人	話題「モグリウム＆八郎湖見学直前！八郎潟・八郎湖のキホン」
9	5/24(金)	御所野学院高校・環八郎湖・水の旅	1 人	美大の菅原先生と OG 美大生に、出前講座を担当した。

10	5/25・26(土日)	学生部モグリウム・八郎湖見学会	13人	八郎湖やモグリウムを見て回りつつ、うたせ館で１泊する合宿を実施した。
11	5/27(月)	秋田公立美術大学・アオコとミジンコの大切な関係	３人	千葉県立中央博物館・林紀男氏による講座。モグリウムの趣旨などを理解できた。
12	5/28(火)	秋田県立大学・アオコとミジンコの大切な関係	14人	林氏の講座。県立大・村松明穂氏の協力により、参加学生も多かった。
13	5/29(水)	国際教養大学・アオコとミジンコの大切な関係	11人	林氏の講座。ここで新たな教養大生メンバーが大きく増えた。
14	6/2(日)	カタマルシェ・環境学習ブース	13人	親子向けイベントに環境学習体験ブースを設置し、スタッフとしてサポートした。
15	6/13(木)	第５回オンライン定例会	５人	話題『5/25-26「モグリウム・八郎湖　見学＆交流会」ふり返りと今後の企画会議』
16	6/17 (月)	天王小学校４年・八郎湖観察	１人	出前授業をスタッフとしてサポートした。
17	6/26 (水)	井川義務教育学校４年・八郎湖観察	１人	出前授業をスタッフとしてサポートした。
18	6/27(木)	第６回オンライン定例会	７人	話題「生態系公園活用法の相談（大潟村地域おこし協力隊・佐藤裕奈氏）」
19	7/4(木)	草木谷ホタル観賞会	９人	谷津田再生の取り組みを行っている草木谷へ行き、ホタルを鑑賞した。
20	7/5(金)	琴丘小学校５年・八郎湖観察	１人	出前授業をスタッフとしてサポートした。
21	7/6(土)	モグリウム報告会 →うたせ館合宿	10人	教養大・名取氏による自然共生サイトについて知る講演。教養大生が発表。報告会後、一部メンバーはうたせ館で合宿。
22	7/7(日)	コガムシの会・田んぼの生きもの観察会	７人	前日うたせ館に泊まったメンバーが参加。大潟村の田んぼの生きものを調査した。
23	7/10(水)	第７回オンライン定例会	８人	話題「八郎潟はなぜ干拓されたのか（谷口吉光代表理事）」
24	7/15(月祝)	プロジェクト WET 講習会	７人	講習会に参加し、プロジェクト WET エデュケーターの資格を取った。
25	7/17(水)	井川義務教育学校４年・川観察	１人	出前授業をスタッフとしてサポートした。
26	8/8(木)	第８回オンライン定例会	３人	話題「潟の博物館構想について（秋田公立美術大学・菅原香織氏）」
27	8/18(日)	湖北邸・ミジンコ観察会	４人	湖北邸から依頼を受けて行ったモグリウムの顕微鏡観察会をサポートした。
28	8/20(火)	大潟村社会福祉協議会夏祭り・ミジンコ観察会	４人	主催者から依頼を受けて行ったモグリウムの顕微鏡観察会をサポートした。
29	8/22(木)	第９回オンライン定例会	３人	話題『「学生部・八郎湖水生生物調査」企画会議』
30	9/8(日)	（株）なんで・なんで・八郎湖体験	３人	主催者による関係者と家族向けの体験会をスタッフとしてサポートした。
31	9/9(月)	渟城南小学校４年・川観察	１人	出前授業をスタッフとしてサポートした。
32	9/24(火)	秋田県立大学・モグリウム顕微鏡観察	４人	県立大の顕微鏡を借り、モグリウムの顕微鏡観察を林氏と行った。
33	10/5(土)	【学生部企画】豊川生きもの調査＆ザリガニ食体験	６人	豊川地区の生きもの調査と、アメリカザリガニを捕獲して食べる体験を行った。
34	10/10(木)	第 10 回オンライン定例会	５人	話題「2024 年度後半はこうしたい！作戦会議」
35	10/12(土)	あきたブナの木塾・はちリバ	３人	小・中・高校生向けの環境学習イベントをスタッフとしてサポートした。
36	10/15(火)	国際教養大学生・千田佐市商店インタビュー	２人	教養大生が OB の働く佃煮屋へインタビューに行った。　※はちプロは同行者。
37	10/19(土)	ドコモ CS 東北・はちリバ	４人	社員向け研修をスタッフとしてサポートした。野外体験の予定だったが、雨天変更。
38	10/21(月)	第 11 回オンライン定例会	３人	話題『「はちリバ」追加コンテンツ制作　作戦会議！①』
39	11/4(月祝)	八郎湖旧湖岸生き物調査＆ワークショップ	16人	自然共生サイトを目指す活動。参加者・スタッフとしてメンバーが多数参加した。
40	11/14(木)	第 12 回オンライン定例会	７人	話題『「はちリバ」追加コンテンツ制作　作戦会議！②』
41	12/3(火)	第 13 回オンライン定例会	６人	話題「富山県・氷見市立博物館視察報告（秋田公立美術大学・菅原香織氏）」
42	12/5(木)	旧湖岸ワークショップ振り返り会	５人	11/4 のイベントのふり返りを行い、今後の計画を話し合った。
43	12/12(木)	大豊小学校４年・環八郎湖・水の旅	１人	出前授業をスタッフとしてサポートした。

44	12/14(土)	八郎湖水草植付け	５人	八郎湖植生再生地点にマコモを植え付ける作業を行った。
45	12/22(日)	プロジェクト WET 講習会	４人	講習会に参加し、プロジェクト WET エデュケーターの資格を取った。
46	12/23(月)	秋田県立大学・はちリバ	２人	県立大・村松明穂氏の講義の一環で行ったところに、メンバーが２名参加した。
47	12/26(木)	第 14 回オンライン定例会	５人	話題「コロンビア・CBD-COP16 体験談（教養大４年・伊藤志帆氏）」
48	1/9(木)	第 15 回オンライン定例会	５人	話題「生物部のアザラシ解体活動紹介（秋田公立美術大学２年・五社光希氏）」
49	1/23(木)	第 16 回オンライン定例会	３人	話題「はちリバ開発秘話（秋田公立美術大学 OB・山舘世弥氏）」
50	1/28(火)	出戸小学校４年・顕微鏡観察	１人	出前授業をスタッフとしてサポートした。
51	2/13(木)	学生部（県立大・美大生）インタビュー＆ワークショップ	６人	2024 年度の主要メンバーに対してインタビュー・ワークショップを行った。
52	2/20(木)	第 17 回オンライン定例会	６人	話題「田沢湖と八郎湖の交流を考えよう！（田沢湖ざっくばらんの会・千葉薫氏）」
53	3/1(土)	八郎潟・八郎湖学研究会・佃煮勉強会	２人	地元佃煮屋である佐藤食品の佐藤社長による講演を聞いた。
54	3/2(日)	あきたブナの木塾報告会	３人	報告会で八郎湖での活動事例発表があり、それを学生が担当した。
55	3/8(土)	日本環境教育学会東北支部大会	１人	学会に参加し、当法人の活動事例発表などを聞いた。
56	3/9(日)	日本環境教育学会（八郎湖視察）＋八郎湖流域管理研究会シンポジウム	２人	午前の八郎湖環境学習体験をサポートし、午後の研究会に参加した。
57	3/14(金)	【オンライン】学生部（教養大生）インタビュー＆ワークショップ	４人	2024 年度メンバーに対してインタビューを行った。県立大生１名が聴講。
58	3/17(月)	第 18 回オンライン定例会	６人	話題「グラフィックレコーディング紹介（秋田公立美術大学２年・五社光希氏）」
59	3/27(木)	第 19 回オンライン定例会	５人	話題「2025 年度はちプロ学生部合宿・その他企画会議」
60	通年	モグリウム定期調査（各大学、生態系公園など９カ所）	10 人	月１回の調査データを取った。データは Google ドライブで公開。
		合計（延べ人数）	304 人	

【主な活動の様子】

↑5/13 国際教養大学モグリウム設置



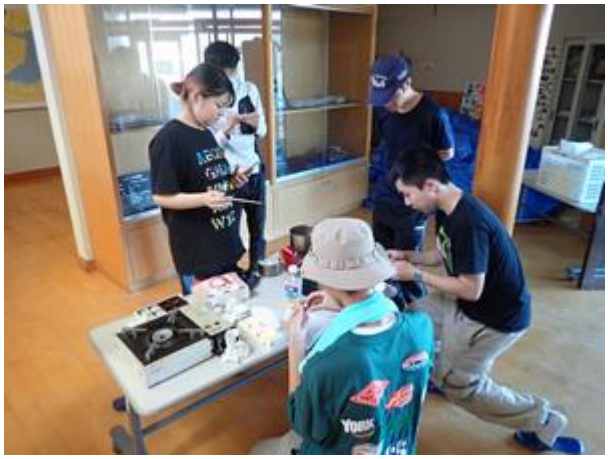
↑5/25-26 モグリウム・八郎湖見学会

↑6/2 カタマルシェ環境学習ブース

↑7/4 草木谷ホタル観賞会

↑7/6 第４回モグリウム活動報告会

↑7/15 プロジェクト WET 講習会



↑10/5 豊川生きもの調査＆ザリガニ食体験

↑11/4 八郎湖旧湖岸生き物調査＆ワークショップ

【県立大生・美大生インタビュー＆ワークショップ報告】

五社光希さん、鎌田ひかるさん、村松明穂先生、佐藤奈月さん、高橋良斗さん、藤山達史さん、斗沢陸さん

【実施概要】
日時：2025 年 2 月 13 日（木）13：30～17：00
会場：秋田県立大学　秋田キャンパス　講義室

参加者：学生部メンバー6 名
秋田県立大学　藤山達史（4 年）、斗沢陸（1 年）、高橋良斗（1 年）
秋田公立美術大学　五社光希（2 年）、鎌田ひかる（1 年）、佐藤奈月（1 年）
　※高橋さん・五社さんは聴講参加のためインタビューは行わず、ワークショップに参加した。
　※国際教養大学生は都合が合わず、後日オンラインでインタビューのみ行った（P.37～）。

司会：NPO 法人はちろうプロジェクト　事務局長　鎌田洋平
オブザーバー：
・秋田県立大学　谷口吉光　名誉教授（兼はちろうプロジェクト代表理事）
・秋田県立大学　村松明穂　助教
・秋田公立美術大学　菅原香織　准教授

【目的】
2024 年度の「はちプロ学生部」に参加率の高いメンバー6 名に対し、インタビューとワークショップを行った。その内容から、「はちプロ学生部」の今後の目標や課題を明らかにする。

【イベント内容】
1．2024 年度活動ふり返り
2．個別インタビュー
（1）氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。
（2）はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えて下さい。
（3）ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？
（4）秋田県の大学の授業で八郎潟・八郎湖について学ぶことは重要だと思いますか？（村松先生）
3．全体ワークショップ

【「2．個別インタビュー」結果】

氏　名	藤山　達史
所　属	秋田県立大学 生物環境科学科
学　年	４年
出身地	秋田県（秋田市）

（1）氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。

藤山：秋田県立大学４年の藤山達史です。秋田県秋田市の山王っていうところの出身です。大学で頑張っていることはいっぱいあるんですけれども、卒業論文や“あなたラボ”っていう企画で高橋良斗さんとバスケットボール観戦を企画したり、他にも、“まごのてサークル”ってところで高齢農家さんの手伝いをしたり、あとまあ、地域包括のところで大学周辺に住んでいる人の、色々と快適に暮らせるように支援したりと、いっぱい頑張っていることがあります（笑）。

鎌田：“あなたラボ”って何か、もう少し詳しく聞いてもいいですか？

藤山：はい。“あなたラボ”っていうのは、株式会社なんで・なんでと秋田県が組んで、<u>若者がいろいろ企画して頑張っているっていうことを県に伝えて、もうちょっと秋田県を元気にしようという活動</u>ですね。伝わりましたか？

↑9/8 なんで・なんで八郎湖体験

鎌田：まあ、なんとなく（笑）。その中でバスケ観戦企画も行っているんですよね？

藤山：そうです！

鎌田：私も先日参加して面白いしお得なので、もしよかったら参加してみてください。

高橋：仙台戦の告知をやっといたほうがいいんじゃないですか？（笑）

藤山：あ！そうですね。

※終了済の企画なので、中略

高橋：私も解説員として（会場にいます）！経験者なので（笑）。

藤山：あと、明後日に ALVE のきらめき広場っていうところであなたラボの報告会をして、私も出展をしますのでご興味のある方はぜひ。

五社：ちなみに何の出店をするんですか？

藤山：えっと、スポーツ観戦の出展をして、グッズとかを限定で見せたりもしてますし、他にもいろいろと見所もたくさんありますので、ぜひご興味のある方お越しください！

鎌田：詳しくは後で LINE グループに送ってください（笑）。

↑2/15ALVE 出展

（2）はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えて下さい。

藤山：はい。私はもともと**魚が好き**でして、はちプロに参加する前は、**杉山先生（杉山秀樹、県立大客員教授）っていう魚に詳しい先生のところで調査を一緒に手伝ったり、塩曳潟っていう大森山動物園にある場所での活動を手伝ったりしていました**。

ある日、環境社会学っていう授業を受けまして、そこで谷口先生から、授業の中で水生生物を調査するのに参加してみないかみたいな呼びかけがあったので、それに参加して興味を持って、まずはちプロの存在を知って、それがきっかけで参加するようになって（はちプロ学生部の）グループ LINE に入ったってみたいな感じでしたかねぇ。

鎌田：なんか今思い出したけど、確か昨年度の末ぐらいになってから知り合った。去年もインタビューのときに来てたけど、急遽参加でインタビューはしてない。だから今年来てもらったっていう…。あの時は藤山くんのことをそんなに知らなかった。「あれ？もうすぐ４年生になる子が来てくれたんだ」と思った。そして、今年いっぱい（はちプロ学生部の活動に）来てもらいました（笑）。ありがとうございます。

高橋：じゃあ参加したのは２年生からってことですか？

藤山：ちょいちょい谷口先生のお誘いを受けて、それで参加したり、都合が付かず参加できなかったりとかして、３年生まで延びてしまいました（笑）。

高橋：じゃあ、それまでは杉山先生のところでしごかれて（笑）？

藤山：高橋君とは、高校時代にもちょいちょい会ってるんだよね～。なんか覚えてないというか…（笑）。

高橋：顔見知り…じゃなかったですか、そのときは（笑）。

鎌田：もう１個聞いてもいいかな？八郎湖に興味を持ったきっかけ。

藤山：あ！はい。それも同じ理由で、**谷口先生からの、被害者目線で八郎湖を考えるみたいな環境社会学の授業をきっかけに八郎湖に興味を持ち始めまして、そのままその流れで参加することにしました**。

鎌田：じゃあ、もうちょっと突っ込んで聞くけど。それまで秋田県にいて八郎湖の名前くらいは知ってたと思うんだけど、どういうふうに認識してましたか？

藤山：そうですね～、うーん…。干拓されていながら秋田県の中で統合して、なんかいろいろあったところの１つみたいな感じで、あまり注目はしてなかったというか。もともと僕、海の魚とかに興味があったので、湖のところまであんまり、お恥ずかしながら手が回っていなかったというか、そんな感じですね。

高橋：それ、多分、県央出身だと秋田の文化が薄いと思うんですよね。それであんまり身近ではなかったですよね。

鎌田：なるほど。まあ、魚が好きだから、湖には興味ない、と（笑）！

藤山：でも、変わりましたよ、僕も！魚以外も興味を持つようになりました。

鎌田：八郎湖について詳しく知ったのは大学に入ってからで、谷口先生の授業受けるまではあまり知らなかったってこと？

藤山：あまり知らなかったです。

鎌田：なるほど。小中高のあたりで、八郎湖について授業で触れることってあった？

藤山：全く無いと思います。

一同：ええ～（驚）。

五社：県央は無い？

高橋：無いと思います。

↑6/17 出前授業スタッフ

（3）ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

藤山：八郎湖に興味を持つようになったのは、そういう環境に対する意識が八郎湖に興味を持つ様になったってのはもちろんあるんですけど、それだけじゃなくて**僕は視野が狭くて魚とか水生生物だけ極めれば良いんだみたいな固定観念みたいなのがあった**んですけど、**それだけじゃなくて生き方であったり考え方であったり、そういうことを色々はちろうプロジェクトもそうですし、他の場面でも結構それを突きつけられたというか学ぶ機会がすごく多くあったので、そういう面というか、魚だけとか水生生物だけじゃなくてもうちょっとそれをアウトプットしたり人間的な面でもこう、鍛えられる場面が多くありました**ね。

鎌田：それは、さっきの“あなたラボ”とかにも繋がってくると思うんだけど、どういうアウトプットをこれまでやりましたか。

藤山：“あなたラボ”でバスケットボールの観戦をしたりとか、あと卒業論文の発表もすごくアウトプットがないと評価もされないですし、“プロジェクト WET”も出前授業のところにも全部あの、アウトプットしていかないといけないんですけど、全部ドワっとアウトプットしてもあまり良くなく

て、わかりやすくパッとまとめて、１００個言うんじゃなくて、１０個、というか少なく言ってそれを全部わかってもらった方が良いんじゃないかみたいな。そういうのもあって。一言で簡潔にスパッと言いたいんですけど、なかなかそれができなかったりとかもしたのでそこも学べることはありましたし、お誘い受けた時になんか、連絡をすぐに返したりとか、そういう面でも早く連絡をしたりすることで信用とか熱意とかが伝わってくるっていうのがあるというか。あるので、そこもすごく以前よりもずっと気をつけるようになったっていうのはあります。

↑7/15 プロジェクト WET 講習会

鎌田：なるほど。ちなみにバスケットボール観戦の活動は何を目標にしてやることにしたんですか。

藤山：はい、私個人ですか？それともグループのところですか？

鎌田：あーそうだね、じゃあグループと自分で。両方聞こうかな。

藤山：はい。実はグループと自分でちょっと目的が違ってるところがあると思うんですけど、グループだと、秋田には何もないっていう人がいると思うんですけど、そういう人。

五社：あー、秋田県民が言いがち。

藤山：そうです、秋田県にはこういう会場ですごい熱くて盛り上がるところがあるんだよってことを、伝えたいってのがまずグループの根底としてあります。

個人的には、大学の１年生の時とかあんまり友達がいないっていうか、なかなか単独行動とか今も多くて。あまりみんなと行動することがなかったので、気の合う人とか自分の意見をちゃんと言って、自分がすごく気の置けない人を誘って、今後のイベントとか個人的にも一緒に活動している仲間を作っていきたいなと思って応募しました。

鎌田：なるほど、いろんな人と協力して活動するってことを実践してみたかったのかな。

藤山：そうです。

（4）秋田県の大学の授業で八郎潟・八郎湖について学ぶことは重要だと思いますか？（村松先生）

藤山：取り入れることは、大いに重要でやったほうがいいとは思うんですけども、計画的な部分とか農学的な部分とか人文科学でやったほうが…どの部分でやったほうがいいかなかなか思いつかないところがありまして。

というのも、以前は環境社会学とかで谷口先生にかなりお世話になって、すごくいろんなこと学べたんですけども、今なんか、八郎湖のことを専門にやっていて、なおかつその活動を理解してくれそうな先生を見つけるのが、思い浮かべるのがすごく難しいです。一つ案として出ているのだと、はちプロで（県立大に）サークル作るって言ってましたっけ？

鎌田：ああ、それは常田君（２年生メンバー）がそういうことしようかと思ってるって話は聞いた。

藤山：多分、出所としてはそういうところから、指導教員を見つけていく…それから授業にたどり着くみたいな、ところなのかな、と思っています。いきなり授業で取り入れるのはすごく重要なんですけれども、それを、どういう風に学ぶかっていうのが中々…パッと思い浮かばないのが現状ですね…中々ちょっと不甲斐ない回答で、申し訳ないですけど…。

鎌田：藤山くんは４年生でもうすぐ卒業なワケだから、後輩にこういう風にやってくれたらいいんじゃないか、こういうことを学んでくれたらいいなっていうことはない？

藤山：そうですね…やっぱり生き物のことは、まあ魚や他の水生生物のことについてもですけど、学ぶのはすごく重要だと思いますね。専門の先生が常勤ではないっていうのは、あるんですけど。例えば杉山秀樹先生（NPO 法人秋田水生生物保全協会代表）にたくさん会ってみたりだとか。生き物について、詳しくこういう生態系なんだ、ということを知っておくのは重要だと思いますし、すごく、面白いです。
　実は先月でしたっけ、秋田地魚検定を受けて、まだ結果は…（笑）。

五社：そんな検定あるんですね。

高橋：初級持ってましたよ、僕。上級受けたりしたんですか？

五社：え、初級・中級・上級があるんですか？

高橋：いや初級と、上級。

五社：すいません、ちょっと逸れちゃうんですけど、問題は何が出るんですか。

藤山：秋田の魚こうやって食べたら美味しいよ、とか。

佐藤：ええっ、そういう感じなの？

高橋：それ、結構特殊な問題じゃないすか（笑）。最後の特殊な…。

藤山：あと、タラって魚いるんですよ。いつ産卵しますか？春・夏・秋・冬？って。タコのオスはどうやって見分けますか、とか。オスは吸盤の形で見分けられる、○か×か、とか！
　そういう、秋田の魚についての研究、そういう問題が出ますし、余談を言うと僕の卒論も秋田の低未利用魚をうまく有効活用するにはどうすればいいかみたいな内容だったので、この検定いいんじゃない、みたいな感じで受けたんですけど。
　そういうような感じで生き物の昔の、どうやって利用すればいいのかとか、いつ産卵するのかとかそういうようなことを中心にというか、そう言うことも学んでほしいな、とは思っています。

村松：今生き物について学んでほしい意見をいただいたんですけど、はちろうプロジェクトだったらモグリウムの中に来る生き物、暮らしている生き物もいるし、あとは八郎湖・八郎潟に実際に行ったりだとか、あるいは川で実際に生き物に触れたりするっていうのがあると思うんですけど。
　私はまあ心理学なんですけど、皆さんのイメージする心理学と違って、動物心理学っていうのが専門なので、中でもフィールドワーク。アフリカ行ったりとか、日本の中でも、ニホンザルを見に行っ

たりするフィールドワークをする研究者もいますし、私はどっちかというと動物園で野生動物の観察したりするっていうのをやってたりするんですけど、そういう観察するのって、こういうスキルがあるんだよ～みたいな授業っていうのは、どう思いますか。

藤山：観察するスキル…。

村松：動物とか生き物の行動をこういう風にみると、たとえば動物園でも単純に可愛いね、とか大きいね、とかだけじゃなくって、ちょっと５分とか 10 分とか見るときに**こういう風なスキルを使ってみると、行動がわかるようになる**んだよ、みたいな…そういうのを学ぶ機会って、ちょっと違う生き物との関わり方だと思うんですけど…どう思いますか。

藤山：パッとは中々イメージが付きづらいところはあるんですけど、でも、すごく重要だと思ってて、例えば釣りとかをするときに、単純に餌とか釣竿を入れるだけでは、魚は釣れないっていうところがありまして…例えば、もうちょっと遠くに投げるとか、誘い方ですね、こう、早く誘った方がなんか魚を誘き出すのにいいとか、あと、ゆっくり誘ったほうが魚が食いつくタイミングが掴みやすくてみたいな、そういうのもあると思うので、そういう技術にはちょっと興味がありますね。

村松：**魚類の嗅覚とか、あと、魚類も個体識別してるよ**、とか…。

藤山：ああ、いいですね～（笑）。

村松：そういう話ももし授業の中とか、あるいは有志の学生でどっか**動物園を見に行ったりとか、先ほどの感じで杉山先生の話をうかがったりだとか、そういうのをやったら面白そうだな、と思ってくれる学生が、いるんじゃないか**と。

藤山：いると思いますよ！（力強く同意）

五社：めちゃめちゃ聞きたい…。

高橋：生態学とかに関わってきますよね。

村松：そうですね、どっちかというと生態学と動物心理学被っている…。

高橋：ここの学生、特に環境学科の人は多いと思いますよ、興味持ってくれる人が。

藤山：なんなら、会社休んで行っちゃおうかな（笑）。

斗沢：自分も参加していきたいですね、そういうのあったら。

高橋：やりたいですね。

谷口：村松先生、ちょっと入らせて下さい。えっと、多分学生たちはまだちょっとイメージが湧かないと思うので、例えば魚とかね。八郎湖で結構いる生物について、村松先生のやり方をしたら、どう

いうことが見えてくるのかとか、ってことを具体的に言ってもらったらわかってもらえるのではないかと。

村松：生物の分類をするとか、個体数を数えるっていうのが、皆さんのイメージしやすいこれまでのフィールドで関わっていくやり方だと思ってて、例えばどういう種類の生物がそこにいるのか、とか、あるいは季節でどう個体数が変わるのか、あるいは２年でどう個体数が変わっているとか、それと水質との関わりであるとか、っていうのを留意しやすいところかなって思ってるんですけど。

動物心理学とかと、生態学、動物行動学とかっていうのは、どちらかというと個体とかグループとか、行動に注目していくので、例えば、こういう環境に置かれたときにはこの動物はこう行動するよとか、さっき個体識別の話もありましたけども、実は八郎湖に住んでいるこの魚は、こういう能力を持っているんだよみたいなことがわかったりだとか、あるいはそれが何か害を及ぼしている場合には、その能力があるってことを使って逆に追い払ったりだとか、捕まえたりだとか、そのようなことにも、活かしていけます。釣りにも繋がっていくと思うんですけども、釣りの、ここではこういう風にルアーを動かしたほうがいい、とかこういう匂いがする餌を使ったほうがいいっていうのは、どういう議論だったりとか、自立があって、みんなが釣り人としてこういうのが常識だよねっていう感じでやってるのかっていうのを、ちょっと、科学的に見たりするのとか、できたりもする、っていう感じ、ですね。

一同：…。

村松：逆にかえって難しくなったところ、あったかなあと…。

藤山：うーん、なるほど～…（笑）。

五社：いいなあ。

◆◆◆

氏　名	斗沢　陸
所　属	秋田県立大学 生物環境科学科
学　年	１年
出身地	秋田県（大館市）

（1）氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。

斗沢：斗沢陸です。出身は秋田の県北の大館市というところが出身です。

大学で頑張っていることは…そうですね、いろいろやりたいですけど、今は勉強で精一杯ですね（笑）。あとは所属しているところは虫をメインに（活動）してる“インセクトサークル”というところと、最近“まごのてサークル”というところに入って、ちょっとまだ活動してないですけども、そこに入って…あと“さっとこ村”というサークルにも入ってますね。

五社：“さっとこ村”は何をしているんですか？

斗沢：なんか大潟村にちょっとした村みたいなところがあって、そこで畑を作ってみたり、そこで食べ物を料理してみたりとか、いろいろやっていますね。先月はキムチを作ったりしました。

一同：へえ～！

鎌田：農業系のサークルに２つ所属しているんだ？

藤山：僕が良斗くんと斗沢くんに声をかけました！

五社：あ、伝道師ですね（笑）。

鎌田：さっき勉強に精一杯って言ってましたけれども、自分的に一番好きな分野とかあるんですか？この辺の分野が好きですみたいな。

↑7/7 コガムシの会
・田んぼの生きもの観察会

斗沢：生物が一番好きですね！

五社：ああ～、いいですね。

斗沢：ただちょっと、今回の学科でちょっと落としてしまったんですけども…。

五社：難しかったんですね。

藤山：僕も３年で落としたんです。

一同：（笑）。

（2）はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えて下さい。

斗沢：はちプロ学生部に参加した理由なんですけども、**以前から八郎湖の生き物とかに興味があって**、ただ、じゃあ具体的に何をしようかっていうのが思い浮かばなくて、そのままずーっといたんです。そんな時に**心理学Ａの授業受けていると村松先生が「今日林先生（林紀男、千葉県立中央博物館学芸員）の講座があるんだよ」っていうのを授業内で知らせてくれて**。それがきっかけで「ああ、じゃあ行ってみよう」と参加し、講義聞いてみて「あ、ここいいな」って思ってその場で（はちプロ学生部に）入るのを決めましたね。

鎌田：そうでしたね。そこからたくさん参加してもらって、非常にありがたいですね！
　ちなみに八郎湖に以前から興味あったっていうのは、何かきっかけがありましたか？

斗沢：そうですね。もともと地元で漁のお手伝いとかをしてたのもあって、淡水の魚とか生き物とかにすごく興味があって、近くの十和田湖とか、あとクニマスとかでよく言われている田沢湖に行ったり、見たりはしてみたんですけど、もう１つの秋田県の大きな湖である八郎湖があまりよくわからなかったんですね。あくまでも、干拓したとか、そこに村があるというくらいの感じで。

　じゃあ今具体的にどういう生き物がいるのかとか、どういう活動をしているのか当時は全然わからなかったので、せっかく今大潟村の寮に住んでいるので、もっと知りたいなって思って、それで興味を持ちましたね。

↑5/28 林先生講座

鎌田：なるほど。小中高で八郎湖に触れる機会はあったの？授業とか、家の中で。

斗沢：そうですね、小中高の授業だと、全くって言っていいほど触れなかったですね。

一同：へぇ～（驚）。

斗沢：家というと、そうですね。あくまでも大潟村が秋田市に行くうえでの通過するところみたいな感じで。あと菜の花ロードがあるっていう感じで。湖自体に関しては、ほとんど触れていなかったですね。昔はそんな感じでした。あとは、ブラックバスを釣りにたくさん人が来てたよっていう感じでは聞いてました。

（3）ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

斗沢：ここ１年近く学生部の活動に参加してみて、最近までは小中高とかやってきて八郎湖に関してあまり知識とか無かったんですけれども。なんだろう、本当にいろんなことがあって、水質はもちろんなんですけども、それ以外の生き物とか歴史的な背景とか、どうして干拓したのかの流れだったり、あと今はどうなっているのか農業とかの関係、あとは漁業とかの関係もあったり。そういった感じで色々な面から八郎湖を見ることが出来て、ここはすごい興味深い場所なんだなってことを実感しましたね。

　あとは環境に対する意識なんですけれども、やっぱり生物環境科学科にいて色々学校内でも講義していく中でも、自然環境ももちろんなんですけれども、それ以外にもそこに住んでる人とか、あと産業とか経済、そう言ったことも考えなきゃいけないなと思って、それも考えつつ、今いる生き物をどうしていくか外来種とかもどう対応していくだとか、そう言った色々なことがあって、自分の中でもまだまとまりは全然ついていないですけれども、個人的にはそうですね、魚とか、あとは鳥とか、そういった方に自分はちょっと目を向けていきたいかなって感じはしてますね。

五社：ああ、大潟村は鳥ですよね。バードウォッチングいつか行きたい。

ひかる：行きたいですよね～。

鎌田：元々生き物とかは好きだったの？

斗沢：あー、とても好きです。ただ、実際フィールドワークをやったことはほとんど無かったんですね。図鑑とか、あとはテレビとかで見るくらいで。高校とかも生物部には入ってたんですけど、やっぱりどちらかというと遺伝子とかPCRを増やしたりそういったことをやってたので、フィールドワークとか実際の生き物に触れるっていうのはすごく憧れがありますね。

藤山：斗沢さんは高校卒業してすぐ大学に入ったわけではないようなことを聞いたことがありますけど、何をやってたんですか。

斗沢：その間は、ちょっと高校時代の途中で精神的に病んじゃって、それで一旦中退して大体そっから６年くらい空白があって、今年（県立大に）合格して入ったっていう形なんですけれども。その間の特に何もしてなかったですね。それこそちょっと漁のお手伝いをしたりとか、そのくらいでしたね。

高橋：それでもなんかこう、県立大をなんか目指すぞっていう、気持ちが再燃したのかわからないけど、そうなったきっかけってなんかあったりしますか？

↑8/18 湖北邸ミジンコ観察会

斗沢：そうだね、やっぱ、地元の生き物を学びたい、もっと知りたいってのがすごく強かったですね。そういうのがあってやっぱ地元のこのところで生き物が学べるってなったら、県立大かなって思ってそれで県立大に入った感じですね。

高橋：えらい！

鎌田：生き物の体験が無くても、そうやってずっと生き物に興味持ち続けるってすごい。私は体験が無くて、TVゲームに走ったんで（笑）。

斗沢：地元の大館だったら秋田犬・比内地鶏だったり、そういう家畜関係とかも結構充実してたので、そういった方の生き物もすごく知っていきたいですね。

（4）秋田県の大学の授業で八郎潟・八郎湖について学ぶことは重要だと思いますか？（村松先生）

斗沢：そうですね…。まず、県立大学として考えると、やはり八郎湖・八郎潟について、水質の、自然環境の生態系だったり、あと、文化的側面だったり、そういう面で授業していくっていうのは本当に必須なくらい大事なことだと考えていますね。あと、個人的には藤山さんが先ほど言っていたんですけど、水質や微生物に関する授業は県立大だと結構あるんですけど、魚とか鳥とか、ミクロな生物じゃなくてマクロな生物、そういった方に関しては現状あまり聞けていないと思うので、そういったところをより知っていきたいと思いましたね。あとちょっと、湖とはまた異なるんですけども、八郎潟自体も哺乳類の類もですね、ハクビシンとかタヌキだったり、そういった方も見れたらいいなって考えてます。

村松：県立大の授業で、マクロな生き物の話を聞くことがあんまりないよっていう風に今おっしゃってたんですけども。所属学科にもよるとは思うんですけど、やっぱり聞く機会があったとしても、例えばアグリビジネス学科の学生さんとかだったら畜産に関係するとか、あるいは森林系の授業の中で、クマとか鹿とかの話が多少出てくるかなっていう感じがあるかなと思うんですけど、これまでに少ないなあと思いつつもマクロの生き物の話が出てきたなっていう授業はありましたか？

斗沢：そうですね、それこそ生態学とかですね。ちょうど、大森山動物園の園長先生が来て、動物生態学の講義をしてくださった時があって、そうですね、その時はすごく印象に残っていますね。あとそうですね、杉山先生が去年まで講義していたんでしたっけ…？

藤山：うん、変わったんだよね、なんか、システムが変わってしまって。それで来なくなっちゃったんですけど…いや、会わせたい、是非会わせたい。魚の専門だったから…。

斗沢：そうですよね、じつは１１月の海洋フォーラムという会で杉山先生とお会いしてちょっとお話させてもらって、その時に去年までは魚の講義をしていたみたいなことを言ってて、それがすごく残念に感じていたので、是非会って講義を聞きたいですね。

↑3/1 佃煮勉強会
（左下が杉山氏）

藤山：なんなら、新屋高校の生徒と一緒に塩曳潟で作業しても、いいかもしれない…。

高橋：あ、誘うか、俺声かかるから、多分。
※高橋さんは新屋高校 OB。

斗沢：あ、もし機会があったら。

村松：じゃあ、ハクビシンとかの話がさっき出てきましたけど、そういう<u>哺乳類が出てくるのって授業ではあんまりない</u>？

斗沢：あ、はい、そうですね…授業だと自分の記憶の中だと皆無に近いですね。
結構大潟村に住んでると、撥ねられた個体とか、たぬきとかハクビシンとかほぼ毎日のように出るんですけども、じゃあそのたぬきとかがどういう生活をしているのかとか考えても、本当に一切わからないですね。

村松：興味があっても、調べる方法も誰に聞けばいいのかわかんない、という感じ？

斗沢：そうですね、本当にもうどうしたらいいんだろう、興味はあるんだけど…。

村松：データを取る方法とかがちょっとわかんないな、みたいな…？

斗沢：そうですね、まさにそういう感じですね。

◆◆◆

氏　名	佐藤　奈月
所　属	秋田公立美術大学
学　年	１年
出身地	秋田県（潟上市）

（1）氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。

佐藤：佐藤奈月です。秋田公立美術大学の、１年なのでまだ専攻の所属は無いです。出身地は潟上市っていう、秋田市の隣・・・ん？ここは秋田市か。

高橋：ここ（県立大）は秋田市ですね。ギリ秋田市。

佐藤：ちょっと歩けば潟上市。
　大学で頑張ってることは、なんだろな、あんまないんですよね（笑）

五社：頑張ってるじゃないですか。

佐藤：いろんなイベントには参加するんですけど、本命はやっぱ**モアイとか、最近は縄文の遺跡とかにハマってて**、これから２年生になるので本格的に研究して、突き詰めたいなと思ってます。

五社：イースター島行きましょう！

佐藤：行きます！

藤山：それで LINE のアカウント名がモアイ？

佐藤：そうです（笑）。

五社：モアイさんは、それでモアイさん…。

鎌田：歴史は好きなんですか？

佐藤：そうですね。歴史は好きだったんですけど、NHK がすごい勉強になるので。

五社：NHK いいですよね。NHK 大好き。

佐藤：NHK で学んでます（笑）。

ひかる：学んでます（笑）。

佐藤：なんか考古学とかが…あ！夏休みに明治大学の考古学の発掘調査に見学させてもらって、それで、あーいいなっていうのがきっかけで、研究してみようかなと思ってます。

鎌田：それ（発掘調査）に参加させてもらったのは大学生になってから？

佐藤：そうです。今年…今年度？大学の４年の合宿にちょっと付いてって、それで見学させてもらったって感じですね。

鎌田：なるほど。確か、村松先生は古墳好きなんですよね？（以前 TV で取り上げられた）

村松：でした（笑）。

一同：おお～！

村松：人から言われるまで本人は忘れてたんですけどね（笑）。でも好きでした（笑）NHK もＥテレとか？

↑11/4 旧湖岸生きもの調査

佐藤：そうです！あそこはお金払ってもいいと思ってます（笑）。

鎌田：ありがとうございます。んで、出戸小学校卒業なんだよね？

佐藤：あ！そうです。

鎌田：なるほど。じゃあビオトープも知ってる？

佐藤：あ！知ってます（笑）。「はっと・はーと」みたいな名前が付いてる…。

鎌田：そう、それそれ（笑）。

佐藤：あそこに１回落ちたことがあります。

鎌田：なるほど（笑）。貴重な経験ですね。

佐藤：はい（笑）。

（2）はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えて下さい。

佐藤：**１番の理由は他大学との交流**で、全然もう生物とかそっちの系列と（関わりがない）…。**他の大学の人と話せるみたいなのが、すごい魅力的で入った**のはある…。**美大は、あくまでモノにするとか、表現するとか、そういうやり方とか技法みたいな、「ツールを学ぶ場所」みたいな印象があって、関心事とかは自分で見つけないといけない**みたいな、そういうものだって思ってるので。そうい

う技術とかじゃなくて、興味のあることを増やしたいなっていうのがあったので、ちょっと生き物全然知らないから行ってみようと思って。最初は生物部に入ったんですけど、それで五社さんが次の日に、サークル紹介のブースではちプロのところにもいて、「あ！昨日の先輩だ！」って思って話しかけたら、変わったサークルをやってるって。それで入ったのが参加した理由です。だから、生物とかから全然入ってないので、あれなんですけど。

鎌田：生物部に入ったのがきっかけだったんだ？じゃあ、なんで生物部に入ったの？

佐藤：なんか、解剖ができるみたいな…。

一同：（笑う）

佐藤：高校生のときに、自分の指をちょっと切っちゃって、それで自分の指を保存したかったんですけど、保存の仕方がわかんなくて、「あー、こういうのわかんないな、私」って思って、「あ、生物部か～」って（笑）。

五社：自分の保管用だった。

佐藤：一応生物なので！高校が（美大の）隣だったのもあって、よく（美大生が）たぬきの解剖を帰り道にしてたりしたよね？

ひかる：あ、新屋でしてた。

五社：あ、あ～、見られてた。

佐藤：美術大学の附属高校があって。で、帰るときにすっごいもう異臭とグロデスクな光景が。（生物部って）これかーって思って、ちょっと気になったので入りました。

五社：ごめんなさい、帰り道に高校生が見てて「あ、（道の）邪魔してるかな」って（笑）。

佐藤：他の子達、「アァ…！」って悶絶しながら帰ってました。

五社：登下校を邪魔してごめんなさい（笑）。

佐藤：八郎湖に興味を持ったきっかけはなんだろな、「あ、八郎湖のことなんだー」って思って入ってなくて、**「あ、五社さんがいる～」っていうのと、菅原先生（菅原香織、秋田公立美術大学准教授）の説明を聞いて、「なんか、おかしいぞこれ」って思って入った**ので（笑）。
　八郎湖自体は小学校のときに、ワークショップというか課外授業で行ったりとかしましたね。見学っていうか、（八郎湖に）行って「ここが八郎湖だよ」みたいな、「ブラックバスが～」とかは知ってたので、（はちプロ学生部に）入って「あ、これじゃん」みたいな（笑）。

鎌田：出戸小学校の出前授業は大体小４の時にやってるから、佐藤さんの年齢を考えると９年くらい前…ってことはやっぱりはちプロですかね。あれ、９年？９年前だったら私いますね。

一同：あら（笑）？

佐藤：え、じゃあ、もしかして会ってる！？教室でも誰かが来て話を聞いてみたいなのもやってて。全然覚えてないんですけど、そういう授業が何回かあったな～。

鎌田：１０年くらい前には私、はちプロに入ってたので。出前授業は大体うちが頼まれてたと思うから…。

↑佐藤さん（小４）
出前授業ではちプロと八郎湖へ

佐藤：会ってる…？

五社：巡り合いですね。

高橋：世間は狭い（笑）

鎌田：今度写真探してみるか（笑）。じゃあ、もしかしたらご縁があったかもしれない。

佐藤：そういうのもあって活動に参加してます。

鎌田：ちなみに、せっかく八郎湖に行ってた地元小学校出身っていうことで、小学校でやったことってどれくらい覚えてた？

佐藤：ブラックバスとか外来種が勝手に持ち込まれたりして、在来種が減ってるっていう話を聞いたり、アオコの話をすごくされたなあっていうのは覚えてます。記憶が薄くて…。

鎌田：印象に残ってることを知りたいわけだからそれでいいんだよ。八郎湖に行ったときのことはなんか思い出せる？

佐藤：あー、実際に行って、ススキみたいなの（おそらくヨシ）がめっちゃ生えてるところの道路をみんなで歩いて、「これが八郎湖だよ」とか「ここはこうだったんだよ」みたいな歴史を教えてもらった気がします。

鎌田：へー…。一緒に入ったか…？歩いた…？

佐藤：記憶が歪んでるかもしれません（笑）。

※後日写真で調べたところ、出戸小４年生時にはちプロと八郎湖に行く学習を受けていたことが判明した。

（3）ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

佐藤：んー、なんだろな。私は小学校の時に一応八郎湖のことについて学ぶ機会があったんですけど、すっかり忘れて、なんか、でこのサークルに入って実際に活動に行って、だんだん思い出してき

たみたいな感じで。そんな感じなので生物も、なんか生き物がすごい好きだったとか虫すごい好きだったとかっていう子供ではなくて、別に興味があったわけではなかったので。なんだろな、実際に行ってみて、その県立大生の知識の多さとかに触れて、なんてすごい人たちなんだ！みたいな。

五社：わかります～。

佐藤：知識っていいな～みたいになって。

高橋：一部の人だけですよね、でも（笑）。

藤山：こっちは（美大生の）アウトプットっていいなっていう、僕はそうなんですよ。

佐藤：「あー、やっぱなんか、美大とは違うな」みたいな、大学ではあんまりやってなくて。やり方とかを学ぶみたいなのが多かったので、面白いなーって思って、入り続けてるんですけど。なんて言ったらいいかな。生き物がすごく苦手だったわけではないんですけど、気持ち悪いとかは普通に思ってたんですね、顔を見て（笑）。思ってたんですけど、県立大生の熱量を浴びてたらなんか、可愛いかも！とか思ってきて、マツモムシ？とかめっちゃ可愛くてもう。来年度はマツモムシを中心にはちプロで活動を。

五社：マツモムシ専門で。

佐藤：なんか知るって、マツモムシを知るだけでもなんか生き物に対する見方が変わったなっていうのが。私の場合はまだ生態系とかわかんないんですけど、生き物って結構面白いかもっていうのを、ちゃんと解像度高めに見ることができるようになったなーって思いますね。だからなんか、きっと私のように多分小学校のクラスメイトも、半分くらいは八郎湖のことを忘れてるので、なんか世の中にもそういう人っていっぱいいるだろうなっていうのを思って、その、何歳になっても、そういうのを解像度を高くして見れる機会があったらいいなっていうのは、最近思ってます。

鎌田：なるほど。解像度という言葉を聞いて驚いたんだけど、去年津田さん（学生部メンバーの美大博士２年生）も同じような事言ってたなと思って。県立大生は自然に対する解像度がすごいみたいなことを言っていて。

ひかる：私も今から言おうとしてた（笑）。

鎌田：鎌田（ひかる）さんも言おうとしてたってことは、美大生が結構そう思うのかな？

五社：学びの分野がすごい違うところありますもんね。結構。美大行くってなったら高校から美術のことを学んで受験してとかで、理系文系とかに分かれることもない人が多かったりするので、科学とか生物分野のことってそっちのけで来ちゃってるから・・・。

佐藤：そうです。高校も（美大の附属高校で）美術系だったのもあって、そっから、壁とかがあるような、向こう側の人たちと初めて大学に入って、会ったから。

藤山：すごいのは、二人くらいだよねぇ（笑）。

高橋：（生物の）知識すごいのは２年生の二人。

五社：いや、皆さんもすごいじゃないですか。

高橋：そうなのかなぁ。

五社：はいー、すごいです！いやもう、無知側としてはすごい知識が・・・。

佐藤：本当に。

（4）秋田県の大学の授業で八郎潟・八郎湖について学ぶことは重要だと思いますか？（村松先生）

佐藤：美大は研究調査っていうのはやっぱり初心者だと思うので、授業でやるってなっちゃうと。そこっていうよりかは、物を作る、っていうところに着地できる授業の方が理解できる、理解が深まるんじゃないかと思ってて、なんだろう、**美大の強みって物を作れるところ**だと思うので、はちリバみたいに、**自分でその問題とか課題とか、調査でわかっていることに対してどうアプローチするか**みたいなのを、美大生は多分わからない知識が、持っている人があんまりいないと思うので、生物とかハ郎湖についてとかに。なので、子どもたちとか、一般の人にどう伝えるかって視点は、**より一般の人に近いと思うので、そういう視点で最終的に何か、物を作るのもそうだし、ワークショップとか空間を作るのが得意な学生もいるので、そうやって地域の人と研究していることを繋げる場を設けたりとか、そういう授業。学生個人が何を考えているか、みたいなのもやるといいんじゃないかな**と思いました。

↑11/4 旧湖岸ワークショップ

村松：こういう社会的な課題があるんだよ、それに対してこういう取り組みをしている人がいるんだけれども、これにもっと参加してほしいんだけども、どう言ったポスターを作ればいいと思いますか、とか…？

佐藤：そうですね、そこを繋げることは美大生だったらできるんじゃないかなって。

村松：じゃあハ郎湖とかハ郎潟とかの細かい部分を深くやるっていうよりも、じゃあそういう場にどうやってみんなを巻き込んでいくか、っていうところにアイデアを出していこうっていうことがあったりする授業の課題の方が…。

佐藤：そうですね。その方が後々美大生も企画する段階で知識が付いたり、ワークショップで一般の人と一緒に知ることもあるんじゃないのかなって思ってますけどね。何かを作る方が大事…美大生としてはそっちの方が理解できるかもっていう。

村松：そしたら、生き物の話がさっき出てきたと思うので、それについても、追加でうかがいたいと思ってるんですけど…。生き物について触れる機会ができて視点が変わったっていう話がありましたが、何か大学の授業だとか、有志の活動として生き物をさっき出てきた動物園で見に行くのとか、あるいはどこかから先生を招いてこういう風に観察するといいと思う、こういう調査があるよっていう

のを知ったり現地に行ってやったりするっていうのは美大生として関心を持つ人ってどれくらいいるか、っていうところですが…。

佐藤：そうですね、関心を持つ人ですか…1/3 から半分かなっていうのが実際の感じです。でも、近くに大森山動物園があって、美大の先生で、壁画を描いている人とか、そういうのも結構長い間やっているので、そういうのと関連付けてとか…そういうのもあるんですよって繋がりを持たせると、興味を持ってくれる人がいると思うんです。あと、心理学の授業っていうのが美大にも一応ありまして…私も今年度の講義に心理学受けたんですけど、そっちはやっぱり人の社会心理学とか臨床心理学とかだったんで、動物ではなくて、心理学は興味持ってる学生が多いので、動物心理学っていう側面からアプローチをしていったら興味を持ってくれる人がたくさんいるんじゃないかなって思います。

村松：そうですね。確かに大森山が近いからちょっと動物を観察しに行ってみよう、みたいなのをすると行きやすいっていうのはあるかもしれませんね。

鎌田：美大生は大森山動物園にタダで入れるって本当ですか（笑）？

美大生たち：あ、タダで入れます～。

佐藤：なんか結構生物部とかもきのこ狩り、行ってたりとか。

ひかる・五社：あ、行ってたね！楽しかった。

佐藤：関わる機会が多いので、身近な場所をフィールドワークしたら、来ると思います。

村松：私の視点から、いつもの大森山だけどちょっと違う視点から動物見れたよ、みたいな。

佐藤：心理学の視点で見る、とか、そういう生物の視点で見る、っていうアドバイザーみたいな人がいて一緒に行ったら面白いなー、っていうのは私は思いましたね。

藤山：県立大生は塩曳潟調査って言って、無料で誘って入るぞっていう作戦で（笑）。

高橋：裏口で見れるのは貝ぐらい（笑）。でもでっかいのしかないですね～…タナゴの産卵に適したサイズが。

五社：（笑）…秋美は多分あれなんですよね、生物に興味がある人が比較的多い美大なんですよね～。

佐藤：多いですよね！普通の美大よりも全然多い。

五社：秋田って自然豊かなのと、アーツ&ルーツ専攻とか、先生含めて結構自然と文化と生物好きな人が多い印象があるので、他はわかんないですけどここは多い印象がありますね。

美大生たち：他の美大よりは、絶対多い。

佐藤；粘菌とか研究してる先生もいるから…。

ひかる：粘菌めっちゃ研究してる…粘菌研究クラブっていうクラブがあって、私も入ってる…。

五社・佐藤：私も入ってる（笑）

佐藤：それもめっちゃ盛んで、結構活動頻度も、粘菌研究クラブも物を作るのが多くて、粘菌を研究している先生とか学生もいるんですけど、なんか物を作るみたいな感じで。

ひかる：研究内容を誰かに伝えるみたいなアプローチで。

五社：あ、でも、結構先生の活動で例えば粘菌を作品にして、それをどこかに展示したりとか広報誌を作ったりとか…。

ひかる：そうですね。広報誌毎年出してるのと、今年なんか粘菌を模したねぶたを作ったりとか…。

↑6/2 カタマルシェ

佐藤：あ、作った～！

ひかる：あとみんなで粘菌になって歩き回るとか…。

五社：あれ楽しかったですね～。

佐藤：粘菌の気持ちを考える、みたいな…。

ひかる：あと粘菌を編み物…布かなんかで作って展示して…。

五社：作ってましたねー。

佐藤：あと粘菌の、音？を人間の心臓の音と似てるっていうところから作品にアウトプットしてるとか…。

藤山：どっかで見たような気が…！

ひかる：はいそうです、どっかで展示していたような…。

村松：じゃあ生物学っぽい側面もあれば美術っぽい側面もあって、それが組み合わさった活動をしてるって感じ…。

佐藤：あ、そうですね～生物について教えてくれる先生はいないので、そういうのを知る機会があったら興味を持ってくれるかもしれない。

ひかる：（写真を見せる）これ多分前展示した、粘菌を模して粘菌の形をこういうところにぶら下がって、粘菌の音に似た人間の心臓の音がここで流れてて、寝転ぶと心臓の音がここで聞こえるみたいな（笑）。

佐藤：なんかワークショップとかも色々やってたりする…

鎌田（ひかる）：あ、これ今年作ったやつですね、光ってる。ねぶた…（粘菌ねぶたの写真を見せている）。

斗沢：おお～…！

藤山：金色のやつ、粘菌ですか。

ひかる：そうですね、粘菌…。

佐藤：粘菌を模した絵の具を、そうですね、粘菌を表しています。

ひかる：南方熊楠（みなかた くまぐす）の研究をしている先生がまず美大にいる。で、南方熊楠が粘菌に興味があった人で、その先生も南方熊楠に興味があるから粘菌を研究したり。で、それを学生と粘菌を研究するって団体がいて、っていう感じですね（笑）。

藤山：おお～…おもったよりコアな（笑）。

ひかる：コアですよね（笑）。大森山動物園に採取に行ったり、大学に…いい粘菌がある木があって、そこでも粘菌を採取して、っていう…。

佐藤：あ、でも結構ちゃんと研究もしてて、お米を与えたら、あ、それは学生だったんですけど、死にかけの粘菌にペーパーライスをかけたらお米が好きだったことがわかって、元気になったみたいな。

ひかる：で、なんか育てたり…。

五社：こないだ粘菌育てるの失敗しました（笑）。

村松：生物学の知識はあんまりないと聞いたけど、粘菌の話を聞いてるとめちゃくちゃ生物学だ…（笑）。

佐藤：なんか、生物学真正面から入ってるっていうよりかは変なところから（笑）。あれ、これは生物学？っていう…。

村松：めちゃくちゃフィールドワークもやってるし採集もやってるなあみたいな（笑）。

ひかる：やってるのかもしれないですね（笑）。

斗沢：すごい活動的ですね。

高橋：今日で一生分粘菌って聞きました（笑）。

五社：美大入ったらもっと粘菌、粘菌、粘菌…（笑）。

佐藤：粘菌のことなんか詳しくなってきて…（笑）。先生授業でもなぜか粘菌の話に最後持っていって（笑）。あれ、粘菌の先生だっけ？なんでだ？みたいな…。

ひかる：着地点毎回粘菌だよね（笑）。

五社：あー、確かに（笑）粘菌と発酵の話よくしますね（笑）。

◆◆

氏　名	鎌田　ひかる
所　属	秋田公立美術大学
学　年	１年
出身地	秋田県（男鹿市）

（1）氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。

ひかる：鎌田ひかると申します。秋田公立美術大学美術学部美術学科の１年生です。
専攻とかはまだ１年生なんで取ってないです。出身地は秋田県の男鹿市でございます。
　頑張っていることは、そうですね、大学内で頑張っていることというよりは…。

鎌田：大学内じゃなくても、外でもいい。というか Facebook とか見てれば、なんか外での活動が多いよね。

ひかる：そうですね。それこそ“あなたラボ”の姉妹プロジェクトに「国語・算数・理科・デザイン！」っていう、“あなたラボ”は結構大人向けなんですけど、高校生向け？のプログラムがあって…。

藤山：あー、はいはいはいはい。

ひかる：それも運営チームみたいなところで一緒に参加してそれを頑張ったり、あとそうだな、何頑張ってたかなー。あとは、最近はいろんなところからデザインのお話をもらって、なんかロゴ作ったりチラシ作ったりしてます。あと興味がある分野としては、お祭りとか結構好きなんだよね（笑）。

佐藤：こないだも行ったよね。３つくらい。

ひかる：大館のアメッコも行きましたし、あと、刈和野の大綱引きも行きました。

佐藤：あれ楽しかった。

ひかる：楽しかった。あと１月の頭に、大日堂舞楽ていう、お堂の中でお面をつけた人たちが踊り踊るっていう祭りに行ったりしました。お祭り、文化人類学とかそっち方面が気になるなーっていうのと、表現としては実写の動画とかアニメーションとか動画関係に結構興味があって、サークルでは映画を撮るサークルに入って、そこで映像撮ったりしてます。

五社：「MIRRORLIAR」だっけ？

ひかる：あー、「MIRRORLIAR」もやりました。

藤山：前は五社さんも新聞で見かけたし。SNS あたりに「あれ五社さんじゃない？あのファッションは」みたいな。髪ピンクだったんで（笑）。

鎌田：こないだ届いた秋田市の広報の表紙に五社さん載ってた気がするなぁ。なんか駅前の、なんだっけ？

ひかる：「まちのえき」じゃないですか？

↑「まちのえき」会場入口

藤山：載ってましたよ。一昨日僕ら行ったんですよ、「まちのえき」。

五社：嬉しい…。

高橋：あと長谷部くん（美大１年の学生部メンバー）もいましたよね。

五社：あのすごい等身大パネル。

高橋：彼らしいなと思いました（笑）。

五社：いつも持ち歩いてるんですよ。

鎌田：「国語・算数・理科・デザイン！」の企画者は澁谷さん（澁谷和之、澁谷デザイン事務所デザイナー）？

ひかるさん：澁谷さんが運営と、あと柳澤龍さん、あと美大の柚木先生（柚木恵介、美大准教授）という方がやっているやつです。

鎌田：あと、年末もなんかやってたよね？

ひかる：あー、そうですね。「デザイン筋トレ忘年会」ていう（笑）。
　あれは当日、その年のメンバー…誘われた人が集まって朝からお酒を飲んでデザインワークをするっていう（笑）。

↑7/15 プロジェクト WET 講習会
（隣に柳澤さん）

五社：筋トレしないんだ…。

ひかる：デザインを作り続けるってのが、デザインの筋トレっていう…。

五社：そういうことなんですか…！デザインしながらスクワットとか…

ひかる：ははは（笑）。デザインを、ひたすら当日仕上げるっていう筋トレ的な、ちょっと不思議なイベントです。

五社：そんなイベントだったんだ…。

ひかる：そうです。お酒が入ってる…ていう感じです（笑）。

鎌田：ありがとうございます。考えてみたら今回参加の人たち、皆さん県内出身なんですね。

村松さん：そうですね。

一同：ああー。

五社：県内、県内、県内、県内…あ～、疎外感…（笑）。　※五社さんは富山県出身。

鎌田：今年は県内学生が頑張った年だって、今思いました。

（2）はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えて下さい。

ひかる：学生部に参加した理由は、そうですね、もともとまず１つ目に生物に興味があるっていうか、なんとな～く好きだなーっていうのは自分の中で自分事としてわかってて、それは**母が割と生き物好き系な感じ**（笑）。
　大学でもずっとカビを研究してたみたいな（笑）なので、そっちよりの知識を**小さい頃から植え付けられて**…みたいな。

佐藤：植え付けられて（笑）。

ひかる：母と散歩行っても、「この魚は〇〇っていって、何科で、こういう種類なんだよ～」って言ってたり、「この草は〇〇っていって、危ないんだよ～」みたいなのを。全部教えてくれて、お庭にきた鳥、「これはねえ、何ていう鳥でね～」って言ったり。

藤山・高橋：いいな～。

ひかる：カエル捕まえてきて「珍しいカエルだよ！」とかって（笑）。

佐藤：すごい！珍しいお母さん。

五社：エンジョイ勢の（笑）。

↑5/20 地域プロジェクト演習

ひかる：そういう中で育ったので、生き物との心の距離がなんとなく近いっていうのは、勝手にそうなっていった感じがあるかなって。（はちプロ学生部に入った理由は）生物に興味があったっていうのと、そうですね、あと、学生部に参加した理由…私もなんか奈月ちゃん（佐藤）と似てるんですけど、やっぱり他大学の人たちと美大の外に出て何かしたいなっていうのはめちゃくちゃあって、美大の中だけだとめちゃくちゃ考え方が偏ってくるので…（笑）。

五社：ああ～、偏りますね。

ひかる：偏りますよね（笑）？

佐藤：思想がね～。

ひかる：思想がね～歪んでくるんで、もっといろんな自分の専門外の分野の人とたくさん話したり、見聞きしたいなっていうのもあって、学生部には入りました。

八郎湖に興味を持ったきっかけも２つあって、まず１つが、さっき出てきた母が大潟村の出身の人で、大潟村には小さい頃から何回も行ってて。なので大潟村の成り立ちのうえで八郎湖のこともものごころついたときには勝手に知ってたので、すごい身近な存在なんだってのはありますね。なんか、「昔は湖でね、今は閉鎖されてちょっと汚いんだけどね」みたいな話を小さい頃から聞いてたのですごい身近だったな～っていうのが１つ。

あと、もう１つがさっき思い出したんですけど、小学生の時の自由研究で、友達と一緒に近くの川とか湖とかで、ちょっと水質検査をする自由研究をやって（笑）友人の母さんがなんか県立大で仕事をしてたらしくって、大潟村にキャンパスあります…？

藤山：あります。

ひかる：ありますよね。なんか、あそこの顕微鏡とかを使って採ってきた水を見るみたいな、自由研究をそういえばしたな。（八郎湖が）すごい身近な存在だったのかな～っていう感じです。

鎌田：じゃあ、八郎湖の水も顕微鏡で見たりしてたんだ？

ひかる：なんか、あんまり鮮明には覚えてないですけど、マルの中にマルがいっぱいいる…のがいました（笑）。

戸沢：ボルボックスみたいな？

ひかる：そうです！ボルボックス的な何か多分あれなんですけど（笑）「マルの中にマルがいっぱいあるね！」みたいな話をしました（笑）。

鎌田：夏だったらアオコかもね。

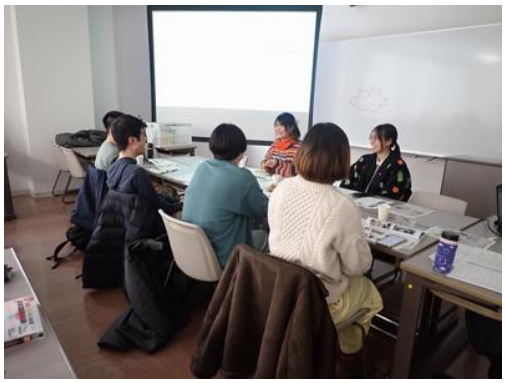
ひかる：っていう自由研究をしました。というのを、さっき思い出しましたね。

鎌田：ありがとうございます。一応全員に聞いておきたいから、最後にもう１つ聞きますけど、学校では八郎湖に触れる機会はあった？

ひかる：学校…。なんか、秋田県の歴史とかの授業で、確か総合とかで、あったような気もするんですけど、そこで八郎湖に触れてきたかは覚えてない。あまり授業聞いてなかったから（笑）。

鎌田：それはいつの授業？

ひかる：多分それ小３とかに秋田県の歴史みたいなパンフレットを渡されて…。



佐藤：資料もらいがちだよね、そういう授業。

ひかる：そう、資料もらいがち。

五社：１番見ない。

佐藤：捨てるのにね（笑）。

ひかる：県内の人が作った…。

佐藤：見づらいやつ（笑）。

ひかる：そうそうそうそう。不思議なキャラクターが載ってたり、謎のレイアウトのね、頑張って作った感じの資料…（笑）。

高橋：美大生の厳しい意見…。

ひかる：そっちになっちゃった（笑）。

五社：やっぱ**デザイン力って大事**ですから（笑）。

ひかる：味のある資料ですから（笑）。（その授業で八郎湖の話が）出てきたような、気もするような、しないようなって感じです（笑）。

（3）ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

ひかる：私も本当に（佐藤さんと）同じ（笑）。

佐藤：言葉は違うから（笑）。

ひかる：なんか、何かが、八郎湖や環境に対する意識が、こう、なんかめちゃくちゃ１８０度変わりました、っていうよりかは、より解像度が高くなりました。
　それはそこにある生態系、なんか生きてる生き物とか植物っていうのとあとはそこに関わっている人っていう二つの意味での解像度が上がったなっていうのがありますね。あとは生き物を実際に水の中に入って探したり、虫取り網を持って走り回るみたいなことをなんか、最近してなかったので。それを大学生になって本気でやれる機会があるのはすごいいい。しかも周りも興味を持ってるから、それをできるのって嬉しいなーって。
　なんか、高校は秋田北高にいたんですけど、美大附属高校の前で体育の時間、グラウンドでダンゴムシを見つけて「見て！でっかいダンゴムシいる！」って見せたら「キャーー！」みたいな（笑）、それが普通なんですけど（笑）。そうじゃなくて、虫とか生き物に興味を持ってそれを楽しめる人がいてくれるって意味でも、そういう場所としても、環境とか生き物に対する意識がちょっと変わったなって思ったり。そうですね、まああと関わっている人を知る、それこそフェイスブックとかいつもかまへーさんが活動している様子がちょくちょく流れてくるってところで、今までも八郎湖に対する知識はちょっとだけあったんですけど、それはたまに機会があったら思い出す程度のことだったんですけど、そうやって常に自分の知っている人が八郎湖に関わっていて、情報を発信してくれていると、結構毎日のように情報を目にするので、たまに思い出すってよりは、いっつも頭の片隅に生き物のこととか、八郎湖のことがあるって状態に変わったかなって思ってます。

鎌田：なるほど。ちなみに、ちょっと気になってたんだけど。フェイスブックってこう、なんか今の若い子たちにとってはちょっと敷居高めなんじゃないかなって思うんだけど、なんであんなに積極的にやってるのかな、という。

ひかる：私はそうですね、元々高校の時から繋がってた人たち、大人の人と繋がることが多くて。そうなるとＸとかインスタとかよりはおじさんとか（笑）、フェイスブックやってる人の方が多かったので、私も作ろっかなーって始めました。
　もう一つの理由として自分の記録として１番わかりやすいのがあって。なんか、なんだろうな。Ｘとかインスタって結構実名じゃなかったりもして「この人誰だろう」って曖昧な部分が多かったり、フェイスブックは実名でドーンってやったり個人的に誰が誰か見やすくてわかりやすいし、あと、文章メインの投稿でも結構写真をいくつも載せれるし、Ｘだと４枚までだし。インスタは写真メインなのでそんなに文章見る人いないし、っていうことがあってなんか、フェイスブックが１番、真面目に自分の記録をするのにちょうどいいなって使ってます。

五社：使いこなしたいなー、私も。

ひかる：でもあんまり若い人で、周りで使ってる人全然いない。クセが強い人しか（笑）。
　年齢上の方は結構みんな使ってるんだけど、学生で使ってる人はなんかそういう相当大人の人と繋がりがある人じゃないと、使ってないなって印象ですね。

（4）秋田県の大学の授業で八郎潟・八郎湖について学ぶことは重要だと思いますか？（村松先生）

ひかる：まず八郎湖について大学で学ぶことはまず秋田県の大学として重要だな～と思ってるのが一つ。でも、私たちはメインが生物ではないので、メインで授業が八郎湖とか生き物に関する授業が一つあるっていうよりかはいろんな授業の中にちまちまと割り込む、みたいな…（笑）。

藤山：さっきの粘菌であったり（笑）？

ひかる：ああ～、そうですね、隙間に入り込める。例えば八郎湖を秋田の歴史っていう視点からまず掘り下げることができる。やっぱり秋田に来たらこの場所の歴史を知ってほしいし、結構お祭りの知識とか秋田県の成り立ちみたいなのは授業の中で出てくることがあるんで、八郎湖の成り立ちとかが授業の中で出てくるっていうのも、自然なことかなっていうのはすごい思いますね。
　っていうのと、生き物っていう視点から見てもさっき言ったように動物園に行って、壁画を描いたり、素描表現演習かな？動物園に行ってスケッチ？クロッキー？（軽いドローイングをすること）を木炭かなんかで作品かなんか作るのもあるので、そういう時にただ動物園に行って描きましょうじゃなくてちゃんと動物、生き物の知識をつけて描くってことで動物の解像度が上がると思うので、そういうとこに入り込めるんじゃないかなって思ってます。そういうところが一つあるのと、あと、もう一つサークル活動も生物部はめちゃくちゃ部員が多くて…すごい大人気なサークルなので、みんな生物好きなんだなって思って。割と多い。

五社：なんか最近来る人減ってるんですけど…（笑）。

佐藤：水曜日（生物部の活動日）って割とみんな休みの日なんですよね～。

ひかる）そういう方で興味がある人に、さらにディープな世界に誘い込むための入り口としてなんか連携できるかなっていう風には考えていて…。全員に知ってもらうっていうよりかはなんか引っかかる人を探すみたいな、きっかけとしてなんか勉強、知識とかを見てくれないかな、と思って…何月だったかな。実際に生き物調査に行った時に美大生も生物部にはちプロの活動を紹介してくれてそこから入った人が何人かいたと思って、そういうオープンに、もっとフラットにつながっていけたらもっといいんじゃないかな、と思います。やっぱり都会からこっちに来てくれた方たちだと、湖に入って生き物を取るって経験がすごい魅力的な秋田でしかできないことだと思うので。体験から入ってもらって実はここってこういう場所なんだよって知識をつけてもらうって流れが美大生的にはすごい自然で、いいのかなっていうのは思います。あともう一つ、さっきのきっかけの窓口になり得るってところで、秋美を卒業して今活躍されているアーティストの方って結構いらっしゃって、生き物をモチーフとしている人も何人も多くて、永沢碧さんっていう方はめちゃくちゃすごいアーティストになりましたけど。

五社：賞を獲りまくり。

ひかる：現在は熊をテーマに描いてらっしゃる。マタギをやってる女性の方で、クマをメインにして描いている方。その方は自分でクマを獲ったり、それを捌いたりする方なんで、そういう生き物をモチーフにしたり、今は藝大の大学院に進んだ方もめちゃくちゃ鳥を研究している方で、大学時代は渡り鳥を追いかけて日本中を歩き回っている方がいたり、作品のモチーフとして生き物を取り上げる方って結構多いので、そういう方に引っかかる入り口にもなり得るのかな、とは思いました。

　また、そういう活動に興味を持ってもらったり参加してもらうにはどうしたらいいのかっていうのはさっきもちょっと話したんですけど、県外の方に秋田でしかできない体験として自然に触れるみたいな、動物を知るみたいな…。山の中にこう、分け入ったり、水に入って行ったり、っていう機会はめちゃくちゃ魅力的だなって風に感じているので、最初八郎湖って場所があってね、ってところから入るよりは、体験できまーすって行って、行ってみてこの場所実はこういう歴史があります、ってやっていったらいい繋がりになるのかなって風に、考えています。以上です。

村松：秋田でしかできない体験…県外からの学生っていう視点からも色々アイデアを出してくださったんですけど、鎌田（ひかる）さんと他の皆さんも含めて、みんな秋田出身だったんだっていうのを、今思い出しました（笑）。
　秋田の外から来た学生と、秋田で育った学生とで八郎湖・八郎潟についてでも授業は小中高は無かったよみたいな話もさっき出てきてたりしたので、意外とそんなに関心度合いは変わらないのかなと思ったり、でもやっぱり名前くらいは知ってるよっていうのもあってそこが大きい違いだって思ったり。そう思います？

ひかる：そうですね、私も（佐藤）奈月ちゃんも八郎潟が結構住んでるところも近いので、秋田県の他の地域よりかはなんか興味が…。

佐藤：確かに近いから知る機会とかは多いけど…。

ひかる：だけど他の地域だったら、県外とそんなに変わんないんじゃないですかね～。

藤山：変わんないですね。

佐藤：どうだったかな…友達も結構大館とかいるんですけど、他の湖の方が近かったりするので…。

ひかる：あ、そうですね、それは（笑）。

佐藤：見るところがなんか違うから…ほぼ県外の人と同じみたいな感じ…。

村松：ど、どうですか？（笑）

高橋：まあ知識は変わんないかもですけど、意識が違うと思ってます。今、八郎湖に限らず、秋田について取り上げるときに小学校から大学まで（地域の）問題が先に主張される。少子高齢化がすごい！ってめっちゃもう、日照時間が少ない、とかばかりあげられて…多分秋田県民って秋田に自信持ってない（笑）。

五社：ネガティブ。

斗沢：そうですね、基本的にそういう感じが

高橋：そう言われたらそりゃ秋田出てくよって（笑）。

高橋：楽しいことを先に取り上げて知ってもらってから問題をっていうのがいいのかなっていうのは、勝手に思ってますけど。

鎌田（ひかる）：いや、そうですよね～。

藤山：これ、“あなたラボ”でも言われたんですけど、**問題と課題をごっちゃになって説明する人がすごく多い**って話ですけど、**問題っていうのは現実に起こってしまっている問題で、起こってしまっていることをあーだこーだ言ってもあんまり意味がなくて、課題っていうのはどうにかできることをどうにかしましょうっていうのが課題**であって、課題と問題をごっちゃにしている説明はまず多いことかっていうことをあなたラボですごい強調されていたので。もしかしたら（高橋）良斗さんが言っていることはおそらくそこなのかな？
　課題は課題としてしっかり改善できるようにしていきましょう！っていうのはあなたラボではめちゃくちゃ言われてることではあります。

斗沢：そうですね…先ほど体験から入ってそれから問題をやっていくって言ってたんですけど、それがすごいなって思って。まず、**何か活動するってなると、楽しいとかエンジョイとかそういう前向きな気持ちで入っていって。それが根本にあれば、課題とか問題があってもやっていけるんじゃないかな**って気持ちがあるんです。やっぱり先に問題とか課題とかが来ちゃうと、それが根本になっちゃうのでそうなると逆に楽しいこととか、いいことがあっても根本でもこういうのがあるよねっていう感じになっちゃうのでそういう順番っていうのはすごい大事って感じしましたね。

藤山：小学校の頃はね、なんか街探検、みたいなのやったりして。それでエンジョイになるところ。それ多分八郎湖のことだったのかな？

↑5/25 うたせ館宿泊

高橋：いや八郎湖は、行かなかった（笑）

藤山：行かないけど、その代わりに小学校の街探検。

高橋：小学校の周りで、やります？

藤山：うん。

村松：八郎湖・八郎潟についても実際に現地に行ってみて「あ、こういう生き物がいるんだね」っていうのを入ってやってみて、「へー」ってなったところで、でも実はこういう問題があってね、って話をされた方が受け取り方がなんか違うっていうか、ですね。

斗沢：最初はエンジョイから入るのがすごくいいのかと、思います。

村松：最初は、もっとこうしたら、こういう生き物が来るかもしれないみたいなところにもっと前向きな感じの気持ちが持てるというか…なるほど。ありがとうございました。

【「3．全体ワークショップ」結果】

後半は、参加メンバー6 名によるワークショップを行った。ワークショップは「ソシオ・マネジメント vol.1」p.29-30、「思いのたな卸し」と「思いの分布図作り」ワークを参考に、下記の内容で行った。

- 個人ワーク①：思いのリストアップ
  学生部で自分が実現したいと思うことを、思いつく限りリストアップして下さい。

- 個人ワーク②：思いをキーワードに
  リストアップした項目から、「ここが重要」というキーワード（15 文字程度）を枠で囲んでください。

- 個人ワーク③：特に大切な思いを選び出す
  キーワードのリストから「特に大切！」と思う項目を最大 5 つまで選び、ふせんに書き出して下さい。

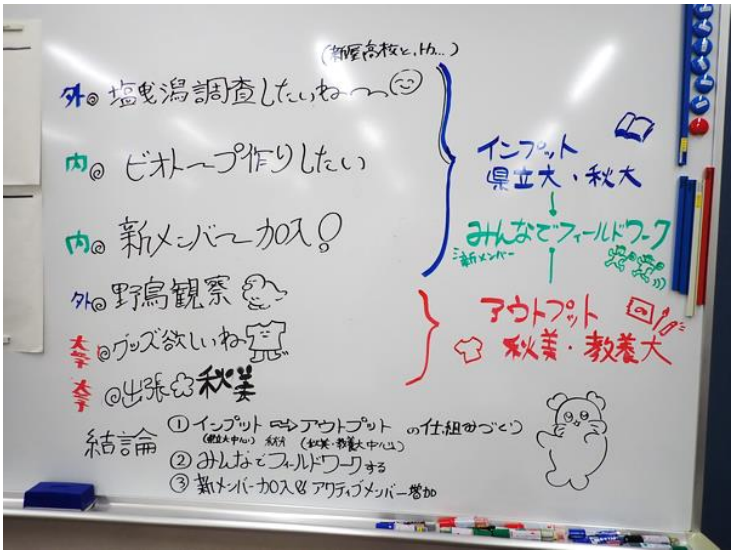
- 全体ワーク①：「思いの分布図」作成
  ふせんの内容を読み上げ、模造紙に貼り付けていきます。発表者と同じような内容のふせんがあった場合、その人も読み上げて重ねたり、隣に貼ってください。

- 全体ワーク②：これからの目標作成
  →全体で話し合い、特に大事だと思う目標を文章化しましょう。

【今回完成した「思いの分布図」】

	現在～2025 年度					2026 年度		2027 年度以降
はちプロ内でできるテーマ	モグリウム観察の結果比較	他の湖との比較	美大生に寄り添ったこと	美大生と一緒に生きもの観察クロッキー会をしたい		県立大・はちプロサークルの設立	ビオトープ作り	
	化石発掘 標本づくり	交換日記		地元から離れた人に向けて		**遊ぶ**（はちリバ・生態系鬼ごっこ） スマホゲーム化	県立大寮にモグリウム設置	
	新屋の生きもの調べ（大学の周り）	仕事とはちプロの両立（新入生に会いたい）	魚類等、生物の知識を深める		大学連携	みんなで**作品**にする		
	新メンバーがいっぱい集う	飼う	ハピネッツ観戦	自分・他人の趣味を知って関わる	県立大と秋美と教養大と３つの大学の**コラボ**	秋美に県立大（はちプロ）の活動展示 県立大に秋美の作品		
	釣り	食べる	Ｔシャツ刷る	グッズ化（図鑑、アクスタ etc.）				
はちプロ外と協力が必要なテーマ	八郎潟一周 **たんけん** 野鳥観察	八郎湖の漁業を学ぶ	野鳥観察	フィールドに出て色々見たい 森、川、湖		県立大生物部（仮）の設立		
				塩曳潟調査にはちプロメンバーを誘う				

※完成した模造紙（手書き↓）をもとに、筆者が作成。



【教養大生オンラインインタビュー報告】

【実施概要】
日時：2025 年 3 月 14 日（金）10：00～12：00
会場：オンライン（Microsoft Teams）

参加者：学生部メンバー4 名
国際教養大学　伊藤志帆（4 年）、川島美桜（2 年）、高橋咲（2 年）
秋田県立大学　藤山達史（4 年）　※聴講参加

司会：NPO 法人はちろうプロジェクト　事務局長　鎌田洋平
オブザーバー：
・国際教養大学　名取洋司　准教授
・秋田県立大学　村松明穂　助教

【イベント内容】
1．2024 年度活動ふり返り
2．個別インタビュー
（1）氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。
（2）はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えて下さい。
（3）ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？
（4）秋田県の大学の授業で八郎潟・八郎湖について学ぶことは重要だと思いますか？（村松先生）
3．フリートーク「はちプロ学生部の今後の展望」

【「2．個別インタビュー」結果】

氏　名	伊藤　志帆
所　属	国際教養大学 グローバルスタディーズ領域
学　年	４年
出身地	埼玉県

（1）氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。

伊藤：伊藤志帆です。埼玉県出身で、今も埼玉に戻ってきています。もうすぐ卒業なので、卒業式では秋田に戻る予定です。

大学で頑張っていること。う～ん…なんかいろいろ気になったことには手を出していろんな活動をしていたんですが…。一番頑張ってたことは、**やっぱり環境問題とか、生物多様性保全について勉強することと、それに関する活動を色々していました。**

若者グループの一般社団法人の普及啓発活動をしたりとか、国際会議とかにもちょこちょこ出させていただいたりとか、今もIUCN-J（国際自然保護連合 日本委員会）でインターンをさせていただいています。

鎌田：国際会議は何に行ったんですか？

伊藤：アジアの国立公園会議（APC）に最初オンラインで参加して。その後IUCNのリーダーズフォーラムがスイスで行われたのに対面で参加して。その後国連大学がやってたグローバルユースミドリプラットフォーム（GYM）っていうオンラインの国際会議に参加して。その後横浜で開催された生物多様性国際ユース会議横浜2024（IYCB）っていう、生物多様性保全について頑張ってる若い人たちが集まる国際会議に参加して。この前行ってきたのがコロンビアの生物多様性条約の第16回締約国会議（CBD-COP16）です。

鎌田：すごいたくさんですね。
そういう情報っていうのは、どこからもらうものなんですか？

伊藤：時と場合によりますけど、名取（洋司）先生から教えていただいたりとか、推薦していただいたりとか。

コロンビアの会議とかは、その前に参加してた国連大学のグローバルユースミドリプラットフォームの中のスピーチコンテストで優勝するとコロンビアに連れてってもらえる、っていう感じです。あと芋づる式にっていうか、その会議で得られる情報も結構あったりするので、なんかそういうところから。

鎌田：全部この１年で参加した会議ですか？

伊藤：いえ。一番最初の国立公園会議なんかは、私が２年生の春学期とかだったので、ここ３年のうちに参加した会議になります。

鎌田：その２年生の時も名取先生からの紹介で？

伊藤：国立公園会議はそうですね。（名取先生に）「こういう会議あるよ」って言われて、「参加したいです」って。環境省にお金出してもらって、オンラインで参加しました。

鎌田：なるほど。名取先生の力はすごい大きかったんですね。

伊藤：間違いない。

鎌田：名取先生がいない（この時点ではまだいなかった）のがちょっと残念ですね。

（2）はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えて下さい。

↑2024/2/18
IUCN-J ワークショップ

伊藤：学生部に参加した理由は、昨年（2024 年）の２月。環境保全に関わる若者だったりとか、若者と一緒に行動している人たちの声を聞こう、っていうワークショップを秋田で会場を持って、IUCN-Ｊと一緒にやった時に、私と名取先生で一緒にコーディネーターとして秋田会場の管理をしていて。

　せっかく秋田で会場を作るなら、秋田じゅうの環境保全活動をやってる人たちを集めようという話になり、メールをさせていただいた先の一つがはちプロだったというところが参加の理由というか、そこで初めてはちプロのことも知ったし、八郎湖のことも知って。

　その後の懇親会でモグリウムを置こうって話になったんですよね。

鎌田：あ、そうそう。飲み会に私が厚かましく参加して（笑）。あの時に何人か学生部初の教養大生メンバーが入ってくれたと。伊藤さんと、高橋さんも、（実際は川島さんも）そうだったっけ？

　それで話をして、なんかモグリウムとかの話もして、興味持ってもらってたから、後日「よかったら教養大に置いてみませんか？」みたいな話をメールでやり取りして、５月に置く流れになったんだったっけかな？

伊藤：そうそう。で、どこに置くかみたいな下見もして、結構早く進んで、そこから。それがきっかけです。

参加した理由としては、八郎湖も知らなくて、はちプロに関わるようになってから、八郎湖のこととか、あとは谷口先生の本（「八郎潟はなぜ干拓されたのか」）を拝読したんですけど、それもはちプロに入る前後に、読んだ方がいいなと思って読んだのがきっかけで、八郎湖についてちゃんと知識とか興味を持つようになりました。

鎌田：なるほど。はい、ありがとうございます。

ちなみになんか１回聞いたような気はするんだけど、最初のきっかけになった IUCN-J のワークショップを担当することになった経緯っていうのも聞いてもいいですか？

伊藤：えっと。そのワークショップが元々“将来世代戦略”って言って、これからどうやってもっと若い人たちを環境保全に巻き込んでいこうかっていう戦略を IUCN-J で立てたいという目標があって。そのためのヒアリングみたいな立ち位置のイベントだったんですけど、その戦略作りに名取先生に巻き込まれて。気づいたら私もその戦略作りの委員会策定委員のメンバーになっており（笑）。

↑7/6 第４回モグリウム活動報告会で IUCN-J の活動を発表

鎌田：なるほど。将来世代戦略を立てるためのヒアリングのイベントとして名取先生にあの声をかけられて、やることになったと。

伊藤さんは、いつ頃から環境とか生物多様性っていったところに興味を持ってたのかっていうところを聞いてもいい？

伊藤：もちろん。大学の２年生なったぐらいの時にというか、一年生の冬に名取先生の授業を初めて履修し、なんて面白い授業をする先生なんだと思って、先生の授業をもっと受けたいと思ったのがきっかけです。

で、二年生の時から、先生の授業を履修しながら授業が無い日は先生のオフィスに通うという生活をして。そこから、より本格的に勉強するようになりました。

鎌田：はい、ありがとうございます。

（ここでちょうど名取先生が入ってくる）あ、名取先生聞こえますか？今ちょうど伊藤さんに、名取先生との馴れ初めみたいな話を聞いてたという（笑）。

（改めて伊藤さんへ）じゃあ、大学２年生で名取先生の話を聞くまでは、そこまで（環境問題に）関心が強い方ではなかったって感じなんですか？

伊藤：そうですね…いや。一応、大学の志望理由書に環境問題に興味があると書いてしまったので興味があったことにしなければならないんですけど（笑）。

意識するきっかけが１回だけあって。中学三年生の時にオーストラリアに１回行ったんですけど、ケアンズに行ったことがあって。そこで、それこそ野生動物の保護施設みたいなところに行って、海でプラスチックが鼻が詰まってしまって息をできなくなってしまった亀の写真を見た時に、すごい衝撃を受けて。「あ、自分たちの生活ってこうやって動物とか、
生物を苦しめてしまってるんだ」っていうのがすごく印象に残ってたので、それで環境問題に興味があるとは志望理由書に書きましたけど、言うてそんなに興味なかったです。書いただけです、はい（笑）。

鎌田：なるほど。非常に参考になる話でした。まあ合格するのは大事ですからね（笑）。

もし名取先生から補足とかがあったら、いつでも言ってください。

名取：はい、わかりました。

（3）ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

↑11/4 旧湖岸生きもの調査

伊藤：学生部の活動に参加して、私にとって初めて本当の意味で、環境保全のためのフィールドを持つ機会になったので、実際に生き物の調査をしたりとか、地元の方たちとお話しながら、どうやって自然共生サイトにできるかなみたいなところを考えたり、実地的な経験を積めたのはすごく大きな学びになっているなと感じていて。

今まで学問としてとか、体系的に生物多様性保全について学ぶことだったり、議論することはたくさんあったんですけど、実際、本当に何かしようと思った時にどういう問題・課題があって、どうやって解決していかなきゃいけなくて、っていう勉強ができたのはすごく私にとって大きかったなと思います。

それで、特に学生部のところで言うと、本当にいろんな学生が集まっていて、教養大にはいないタイプの学生もたくさんいて。特に“虫ボーイズ”なんか私にとってはすごく大きな刺激になってて。生き物に対してすごく詳しくて知識を持っていて、すごく熱とか愛を持っている学生と会うことができて、話すことができたのはすごく大きな刺激になりました。なので、そういう意味では環境保全に対して、より今まで以上に多様な人が関わっていかなきゃいけないし、多様な人が関わってたらもっと楽しく面白くなるなあっていう、その意識は強まったかなと思います。

鎌田：教養大には、そういう生き物好きの集まってるサークルとかないですか？

伊藤：生き物好きが集まるサークルは無いんじゃないかな。

鎌田：（生き物）好きな人はいる？

伊藤：いるんじゃないですかね。探せば多分。

↑5/26“虫ボーイズ”命名の瞬間

鎌田：なるほど。はい、ありがとうございます。

“虫ボーイズ”の呼び名はすっかり定着しましたね。名取先生が最初に言ってくれたんですけど、私もこれいいなあと思って、最近は私も使ってます（笑）。

名取：そうそうそう。

伊藤：面白いです。

（4）秋田県の大学の授業で八郎潟・八郎湖について学ぶことは重要だと思いますか？（村松先生）

伊藤：えっと、教養大で八郎湖を扱うとしたらどんな内容がいいと思いますか、という質問ですか？

村松：そうですね。まず、地域に根差した環境についての問題を考えられる授業があった方がいいと思うかっていうのと、もしあるとしたら、その中身はどんな感じの内容が聞きたいかっていう。そんな感じですかね？

伊藤：ありがとうございます。

えっとまず、はじめの**「秋田県の大学の授業で扱うべきか」っていうのは、本当に扱うべきだと思ってます**。さっき美桜が言ってくれたみたいに、私も八郎湖のことを知った時に、**秋田県に住んだ経験がある、住んでる人間として、これは知らなきゃいけない歴史だと思ったし、知らなきゃいけない今抱えている課題だと思った**ので、扱う授業はあった方がいいと思います。

それで、教養大の中で、私はちょっと履修できなかったのでわからないんですけど、友達から聞いた話で、秋田学っていう授業があるんですね。その中でおそらく八郎湖のことも触れていると思います。ちょっとどの側面でとか、どの深さで八郎湖について触れているかというところまではわからないんですけど、触れている授業自体はあります。

「扱うとしたらどんな内容がいいか」っていうところなんですけど、さっき先生がおっしゃってくださった通り、**理系の人は理系のアプローチで学べばいいと思うし、社会学的なことを学んでいる人は社会学的なアプ**

ローチから学ぶことがあっても私はすごくいい と思っていて。

まあ、それぞれの得意な分野だったりとか、強みが生きる形で八郎湖のことを学んだり、何か課題を解決するために、考える時間があればいいと思っていますが、教養大の強みを活かすんだったら…珍しいところがリベラルアーツっていって、いろんな分野について学びをするんですね。特にこう、この分野だけっていう専門を持たずに、いろんな学問について学びたい学問を学ぶ大学なんですけど。

なので、その強みが活きるような八郎湖の勉強の仕方をするとすれば、それこそさっきおっしゃっていたみたいに理系の技術的なところからアプローチをしている人がいて、社会学的にこう人々を巻き込んで活動してる人たちがいて、じゃあどうしたらそういう人たちと一緒に手を取って、新たなコラボレーションだったりとか、どうやって多分野的に八郎湖について、八郎湖が持っている課題についてアプローチしていくことができるかっていうのを考えるのは、すごく意義があるかなと思っています。

↑11/4 旧湖岸ワークショップ

まあ、学校の中でも国際的な議論に興味がある人がいたり、逆に地域に根ざした活動に興味がある人もいるので、そういうターゲットの広さみたいなところを活かした勉強の仕方ができたら面白いかなと思います。私が個人的にあの学べて良かったなと思ってるのは、本当に谷口先生の本に書いてあった漁師さんとの歴史の部分だったので、個人的にはそこが学べたら嬉しいですけど、まあ教養大でやるならそんな授業かなと思います。

以上です。ごめんなさい、長くなっちゃって。

村松：いえ、いえ、ありがとうございます。

先ほどからの皆さんのインタビューの話をうかがっていて、あとは県立大と美大の学生さんのお話もうかがっていると、やっぱりそれぞれにはちプロ学生部に入ったきっかけとか、生き物に対する関心の方向性も違うなと思っていて。

生き物そのものを観察したり、触ったりするのが大好きっていう視点もあれば、知ったことを誰かに伝えたいっていう視点と。もちろん生き物好きっていう方向性もあれば、あとは皆さんみたいに元々環境問題とか、野生動物保護とか、そういったところに興味があって。今秋田県に住んでて、名取先生をきっかけに八郎潟・八郎湖についても知っていったっていうような方向性もあるのかなと思って。

で私、個人的には動物心理学なので生き物大好きっていうところと環境保護が気になるんだよねっていう、ちょうど県立大と教養大の学生さんの半々ぐらいな感じのところに自分はいるな、と思ったりするんですけど。

大学に入ってから生き物に触れる経験っていうのは欲しいなと思いますか？八郎潟八郎湖について学ぶ学生部の活動もそうなんですけども。

伊藤：人によるとは思いますが、個人的には私は…秋田に行って、明らかに実際に植物に触れたりとか、生き物に触れたりする機会も増えましたし、そういう経験ができてよかったなと思っているので、実際にフィールドに行って生きもの調査ができるのはすごく大きいかなと思います。

村松：フィールドとか体験するっていう、そういう機会が自分の専門的な学びにもつながるし、専門的な分野とはちょっとずれてても、そこの部分の知識もちょっと入れて、こう一緒に共同してやっていくっていうところに活かせるということですね。なるほど。

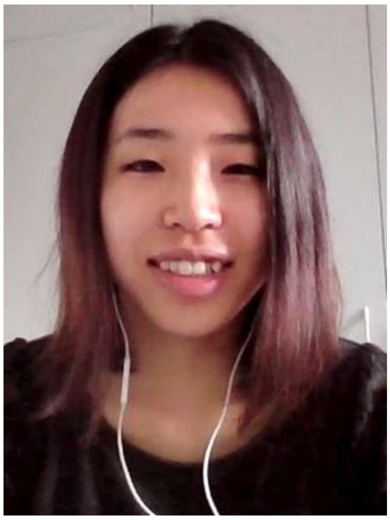
先ほども教養大の学生さんに生きもの好きはいると思うとおっしゃってたんですけど、生き物好きな方っていうのはどのぐらい…。「生きもの好き！」っていう感じで、環境保護とかに興味があるっていうよりは、なんかもうちょっとグローバルな視点で考えている方が多いっていう感じなんですかね？

伊藤：大学全体として、どちらかというと文系寄りの大学なので、別に決まってるわけじゃないですけど。なのでもっと社会学的な視点からとか、文化的な視点からとかで、環境問題に興味を持っている人は多いのかなという。私の勝手な印象ですけど、いるとは思います。

ただ、入学する前から生き物好きとか生き物について勉強したいっていう学生は生き物についてもっと専門的に勉強できる大学に行く可能性の方が高いと思っていて、教養大に来るっていうのはなかなか考えづらい気がします。

村松：なるほど、なるほど。確かにそうですね。ありがとうございます。

◆◆



氏　名	川島　美桜
所　属	国際教養大学 ※西オーストラリア大学に留学中
学　年	２年
出身地	東京都

（1）氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。

川島：えっと川島美桜です。現在は西オーストラリア大学というところで留学を一年間しています。大学で頑張ってることは、新しいことを学ぶのがすごく好きなので、勉強は AIU（教養大） にいた時も、今もすごく頑張ってますね。

あと、留学先では特に、自分が普段やらないようなことに挑戦したりとか、自分から人に話しかけるようにして、ちょっとコミュニティを広げようとか思ってます。

鎌田：オーストラリアにはいつから行ったんでしたっけ？

川島：えっと、一ヶ月前ぐらいに来ました。

鎌田：２月からね。新しいことに挑戦したいっていうことでしたけど、具体的にこれをやってみたいなとか、興味持ったことってありますか？

川島：えっと、学問とは関係無いですけど。こっちの人がすごく朝ランニングとかサイクリングをする習慣があって。自分も日本にいた頃はスポーツをする習慣全然付いてなかったんですけど、こっちに来てからそれを自分のルーティンにしてやってますね。

あとは環境系で言うと、私の大学すごく環境科学、野生動物の保護とか、海洋生態系の保護とか、環境関係の授業がたくさん提供されてて、それを取ってる学生も多いので、環境系を勉強してる学生の集まりみたいなのがあって、その団体がやるイベントとかに積極的に行くようにしてますね。

日本の環境保護とオーストラリアの環境保護ってその規模も違うし、保護する対象も違うし、そういう意味でなんか違いを見るのが面白いのかなと思って。

鎌田：ちなみにその違いについて、気づいたことをちょっと教えてもらってもいいですか？

川島：なんだろう。生えてる植物がサイズがでかいとか。

あとは、私の大学がある都市特有なのかもしれないけど、野生の植物が身近にあるとか。歩いてすぐ５分ぐらいのところにすごく大きな公園があって、そこは一応道を整備されてるけど手つかずで、保護の対象になってたり。

市のちょっと外側に行くと、国立公園とかがたくさんあったり。

あとオーストラリアって、固有の動物？コアラとかカンガルーとかが代表的なものだと思うんですけどたくさんいて。まあ、それだけじゃなくて、本当にすごくたくさん種類がいて。その動物たちに触れられる“ワイルドライフパーク”っていう、動物園だけど見るだけじゃなくて、触ったりとか餌あげたりとか、あとはどういう風に保護されてるかとかを学べるような場所が身近にあるので面白いなと。

鎌田：ありがとうございます。何か村松先生が好きそうなテーマだなって思ったんですけど、なんか聞きたいこととかありますか？

村松：すごく面白く聞かせていただいたんですけど。最後に動物と触れ合える施設があるっておっしゃってたんですけども、結構「動物と触れ合うのって大丈夫かな？」みたいなのも一方で国際的にいろいろ考えつつあるのが現在だと思うんですけど。そこの施設では、どんな風な工夫をして、ストレスにならないようにとかってしてましたか？

川島：そうですね・・・。人間に対してはもちろん消毒とかして、病原菌とかがもしあった場合、広がらないように、みたいのはあったけど…。

動物については、触れ合うっていう面で言うと、例えばコアラは夜行性だけど、やっぱ昼に人が来るからその触れ合うために、起こされてるのかな？まあ、ちょっと本来の生活とは違う時間帯に起こされてるのかなっていう感じはあったり。でも夜行性のもの、爬虫類とかもいたんですけど、それらは屋内のすごく暗いところで管理されてたり。

“ワイルドライフパーク”があったところは市の中心街から遠いところで、車で行くんですけど、ちょっと市と隔離されてるというか。そこにたどり着くまでに、結構山道を走るというか、隔離されてるっていうところはあったかな、うん。

村松：保護施設なんですか？

川島：完全なる保護施設ではないと思います。どっちかっていうと動物園に近い感じ？

村松：まあ日本だと最近シフト制とかで、モルモットも午前に出てる子、午後に出てる子みたいにやったりするとかはあるんですけど、あんまりそういうのはしてない感じですか？

川島：普通に動物園みたいな感じで、何時からコアラとの触れ合いとか、何時から餌をカンガルーにあげるとか、みたいな感じだったので。

村松：じゃ最後の質問なんですけど、あの民営ですか？それとも公営ですか？

川島：えっと。後で調べてからでもいいですか？

村松：あ、じゃあ、自分で調べます。ありがとうございます。面白いお話伺いました。

（2）はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えて下さい。

川島：私が学生部に参加した理由は、さっき志帆さんが言ってた（IUCN-J の）ワークショップに参加した時にはちプロについて知って。このワークショップに参加する前に、1 回名取先生の授業を取って、そこで生物多様性保護の重要性とか、日本での現状とかを学んでいく中で、自分は今まで環境保護に興味はあったけど、実際何か行動に移したことはなくて。

自分で何か活動に参加したいって思ってたので、ワークショップに参加した時に、いいきっかけになるなと思って、参加させてもらいました。

↑2024/2/18
IUCN-J ワークショップ

鎌田：ちなみに、ワークショップの案内っていうのはどんな感じで来てましたか？学内からとか、知り合いからとか。

川島：えっと、名取先生からメールが来たのかな？

名取：いやうん、多分メールしたんだと。チラシ作ったんだけど、休みの期間だったから伝えようが無いのでっていうので、その前の学期に授業取った学生全員に送った。

鎌田：あれ、高橋さんも来てくれてたんだっけ？この時。

高橋：来ました。私は Facebook か何かで見たような気がします。

伊藤：載せました。 SNS も全部。チラシ系を。

鎌田：なるほど。あの時、教養大の学生さん結構いましたもんね。わかりました。
ちなみに川島さんは東京出身ってことですけど、それまでに八郎湖についてなんか聞いたことはあった？

川島：いや無かったですね。そのワークショップで初めて知ったっていう感じです。

鎌田：なるほど、わかりました。そうですよね。ありがとうございます。

（3）ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

川島：私も結構志帆さんと似ているところがあって。やっぱり授業とかで、環境保全について学ぶと、どうしても机上の話に留まることが多くて、なかなか自分の生活と結びつけるって難しいし、身近に考えることができなかったんですけど。実際にそのフィールドに行って、どんな生物がいるのかを見たり観察したことで、授業とか教室の中ではできない学びができるんだな。それはすごく貴重な機会だなと思いました。

あとは秋田に二年ぐらい住んで、八郎湖にある固有の生態系について知れたっていうのは、秋田に住む人間としてすごくいい機会だなって思いましたね。

↑7/6 第４回モグリウム活動報告会

鎌田：確か川島さんは７月６日の（モグリウム）報告会をやった時に来てくれてたよね？

川島：そうですね。でも、教養大のモグリウム設置には行けなくて。だからその時にうたせ館（はちプロ事務所）のモグリウムに行って初めて見たっていう感じですね。

鎌田：さっき八郎湖固有の生態系って言ってくれましたけど、どの辺が固有だと思いました？

川島：そもそも私はモグリウムっていうもの自体知らなかったし、モグリウムを作ることで、八郎湖にある環境を八郎湖じゃないところ、教養大とか他の場所でも再現できる。この環境を別のところでも保護していけるっていうのは、面白いなと思います。

鎌田：そっか。林紀男先生（千葉県立中央博物館）のお話で、モグリウムの趣旨みたいなのも聞いてもらってますもんね。ありがとうございます。

（4）秋田県の大学の授業で八郎潟・八郎湖について学ぶことは重要だと思いますか？（村松先生）

川島：私はまず、秋田県の大学で八郎潟とか八郎湖について学ぶことはすごく重要だと思っていて。その地域に住んでる人って、自分の地域にある生態系がそこにあることが当たり前だから、きっかけがないとその重要性に多分気付かないと思うんですよ。その重要性をどう守っていくべきだろうかとか、何ができるかっていうことに気付かないと思うので。

秋田県に住んでる人にも知ってもらいたいし、もちろん私たちみたいに大学進学をきっかけに秋田県に来た人にも知ってもらいたいので、そういう意味で…大学っていうのは色んなバックグラウンドを持った人が学ぶ場所なので、授業でこの内容を扱うのは、とてもいいと思います。

どんな内容がいいと思いますかについては、第一にやっぱりフィールドに行く。八郎湖に行って、実際に生きものに触れて学ぶっていうのが大切な内容だと思ってるので。自分はどうして（環境を）守ることは大切なのか、その歴史も含めて、知識として学ぶことも大事だと思います。

あとは、ディスカッション。そこまでその具体的な内容はあんまりわからないけれど。

村松：基礎知識。まあ、歴史とかの経緯も含めて学びつつ、生態系についての知識とかも学びつつ、それをベースにしながら、あるいは並行してフィールドでも学んでいって。で、その秋田県の自分たちが暮らしているところにこういう課題とか、こういう素敵な場所があるんだなっていうことを知った上で、それを学外の人にも地域に住んでいる人にも「重要ですよね。一緒に活動していきませんか？」みたいな感じで、フィードバックというか広げていくっていうのがいいかな、っていう感じっていうことですかね？

川島：うん、そうですね。なんか大学で扱うことで、そこが最初のステップになって、例えばはちプロに興味を持つ人も増えると思うし。

あとは大学で八郎潟について学ぶっていうので、一つの授業になるかどうかはわからないけど、例えば今、もともとある環境学についての授業に秋田に根差して生物多様性保護している活動の例としてはちプロと八郎潟についての活動を取り上げる。その一部だけでも例として取り上げるっていうのも、いい授業への組み込み方かなと思います。

村松：ありがとうございます。

ちょっとずれるんですけれども、（川島さんは）元々生き物に関わりたいな、アニマルウェルフェアにご興味があるっていうことだったので。もちろん生き物動物にも関心はお持ちだとは思うんですけれども、大学に入ってから実際にいろんな生き物、微生物レベルからもうちょっと大きい動物まで、触れてみたいなって思うことはありましたか？

川島：ああ、個人的にはありますね。

私は生き物・動物もだけど、植物も、自然の中にいることが好きで、それを観察したり触ったりするのは好きなので。それはできる機会があるなら、すごくいいなって思いますし、実際に牧場に行って生き物触ったりとかいう機会はあったんですけど、微生物レベルだとあんまりないかもしれない。

村松：やっぱりそういうところになってくると、はちプロ学生部とか、そういう活動に参加すると、機会が出てくるっていう感じですかね。

川島：そうだと思います。

◆◆

氏　名	高橋　咲
所　属	国際教養大学
学　年	２年
出身地	埼玉県

（1）氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。

高橋：高橋咲と申します。出身地は志帆さんと同じ埼玉県で秩父市っていうところです。

　大学で頑張っていることは…なんだろう？人生悔いなく生きたいので、やりたいことを全部挑戦してみるっていうこと。具体的に言うなら、**一年生の頃から秋田…地元というか、秋田の地域について結構知りたいと思っていて。で、地元の人とかと交流をするサークル“会う輪”っていうのがあるんですけど、それに入っていて、それで農家さんのお手伝いとか子供会とかをやる中で交流を深めていったりだとか。**

　最近はスキー場でバイトしてみたりとか、地元のシェアハウスに住んでみたりとか、ちょっと秋田について知りたいなって思って、いろいろやってるかなと思います。

鎌田：あれ、高橋さんが今度三年生ってことは？あれ、留学は？

高橋：留学は次の冬の予定です。

鎌田：そっかそっか。川島さんは今留学中だけど、タイミングって結構みんなバラバラなの？

川島：そうですね、結構バラバラ。

鎌田：なるほど、全然知らなかった。
ちなみに高橋さんはどこの国に行くとかって決まってるんですか？

高橋：まだ決まってないです。

鎌田：なるほど。じゃあ、それまでは秋田について知る活動をいろいろ頑張ってやっていきたいということですね。

高橋：そうですね。

鎌田：あとは…そうだな。農家の手伝いとか、シェアハウスとか、スキーのアルバイトとか、いろいろやってるんですね。そういう情報ってどこから手に入れてます？

高橋：農家さんのお手伝いとかのサークルを通して、前から代々つながってきてて。それで、っていう感じです。

鎌田：へえ。そのサークルの名前はなんでしたっけ？

高橋：“あうわ”っていうサークルです。

鎌田：Our？

高橋：出会うの“会う”に、輪っかの“輪”です。

鎌田：あっ、なるほど（笑）！そのサークルって、いつから作られてるんですか？

高橋：ええと… 2016 年だったかなと思います。

鎌田：へー。メンバーって何人くらいいます？

高橋：コアメンバーと普通のメンバーがいるんですけど、全員合わせたら 60 人ぐらいかなと思います。

鎌田：そんなに！？なるほど…。
　いや、なんか先日名取先生と話してた時に「教養大生は地域貢献が大好きなので」みたいなことを言ってたので。確かに 60 人もいるっていうのは、すごいですね。
　なるほど、よくわかりました。ありがとうございます。

（2）はちプロ学生部に参加した理由、八郎湖に興味を持ったきっかけを教えて下さい。

↑2024/2/18
IUCN-J ワークショップ

高橋：私も美桜と一緒で。若い人たちが話し合う会（IUCN-J のワークショップ）に参加して面白そうだなって思って、参加しました。

鎌田：はちプロの方も、そこで知って参加してくれたってことでいいんですよね。

高橋：そうです。でもそんなに活動も参加できてないので、あまりわからないんですけど。

鎌田：なるほど。じゃあ今、八郎湖に限らず、環境でもいいかな？関心を持っていることって何がありますかね？

高橋：関心を持っていることは、人間と自然がどうやったら共生して暮らしていけるのかっていうこととか、あと野生動物とか家畜とかアニマルウェルフェア系も興味あります。

鎌田：なるほど…。これ、せっかくだから川島さんにも聞いとけばよかったなって今思ってるんですけど。川島さんにも聞いてもいい？

川島：そうですね。私自身はすごくいろんなことに興味を持ってる人なので。

「これ」って言われると難しいけど、はちプロに関して言うと、自分では正直活動になかなか参加できなかったなっていうのが結構悔しいところではあって。その理由の一つとして、やっぱり八郎湖と AIU（教養大）って結構距離があるし、そこまで行くのとか、活動も結構 1 日まるっと時間を使うことになるから、なんかそれで参加できなかったなっていうのがあって。でも AIU ではちプロ学生部の支部ではないけど、なんかサークルの一つとして、AIU とか秋田雄和に拠点を持てば、交通手段とか、実践的な面でも、もう少し活動に参加しやすくなるかなと思うし、やっぱりもうちょっと活動に参加したかったなっていうのはあって。

それと、私がその環境問題に興味を持ったのは、生物多様性保護というよりかは、自分は結構食糧問題にもともと興味があって、そこから飢餓が起こっているのに食品ロスが起こってるっていうこの矛盾が中学生ぐらいの時から気になっていて。そこから入って、どんどんいろんな環境問題について知っていくようになったんですけど。今興味を持ってるのは、食肉生産の環境問題が環境に与える負荷とか、はちプロの活動が関わってるような生物多様性保護。日本固有の自然の保護っていうところの二つですかね。

鎌田：なるほど。はい、ありがとうございます。

ごめんなさい。なんか話が前後して。

名取：今言ってくれた、足が無いから参加できないってところは、大学としても解決しなきゃいけない問題で、「教員が学生を乗せて他所に行っちゃいけない」ってルール。まあ撤廃しないといけないなと思っています。

川島：ですよね？

名取：美大の菅原（香織）先生みたいに、自分でバンを運転して学生を連れて回れるような感じができないと、リモートなところにある大学でいろんな活動に参加できない、ということがあって。そこは大学側もちゃんとしないといけないかな？

鎌田：あれ？もしかして、合宿の時に私が伊藤さんを乗せていったとかは、結構グレーゾーンだったり？

名取：それは教員じゃないからいいんです。

鎌田：あ、そうなんですね（笑）。

伊藤：そうそう、個人的にやっていただいてることは多分問題ないんですけど。**教養大側でライドシェアとかが体系的になったらいいのかもしれない**ですね。

鎌田：なるほどなるほど。そういえば、先日ある学会に来てた大学の先生が言ってたのは、「美大や県立大にはバンがあって羨ましいな。乗用車かトラックみたいなものしかうちの大学にはなくて、学生乗せていけないんですよ。」みたいなことを言ってましたね。

　そういう点では美大・県立大あたりは恵まれているのかな、なんてちょっと思ったりもしました。

（3）ここまで学生部の活動に参加して、八郎湖や環境に対する意識はどう変わりましたか？

高橋：そうですね。**はちろうプロジェクト…そもそもそういうものがあるって知らなかったので、そういうアクティブな活動が秋田にあるっていうのが知れて嬉しかったのはありました。そこ（八郎湖）に（モグリウムの）種を復活させよう、みたいなところにすごく魅力を感じて。そういう活動があるのがすごく素敵だな**と思いました。

↑5/29 林先生講座

鎌田：ありがとうございます。
　八郎湖や環境に対する意識ってこの一年で何か変化ありました？

高橋：そうですね。もともと八郎湖を知らなかったので、変化とかわからないんですけども…。

鎌田：八郎湖だけじゃなくていいよ。環境とか、もうちょっと広くても。

高橋：環境…。変わってないかもしれないです。

鎌田：その変わってないところで、環境に対してどういう意識を持っているかみたいなところ、ちょっと聞いてもいいですか？

高橋：え、なんて答えたらいいんでしょう？

鎌田：さっきの話だと、人間と自然の共生とか、野生動物とか家畜とか、その辺に興味があります、みたいなお話してくれてましたけど、その辺に関心を持ったのがいつぐらいか、とかって覚えてます？

高橋：はい。その辺に関心を持ったのはいつでしょう？中学か高校くらい、もっと下かなと思います。
　私の家族も結構そういうのに興味がある人が多くて、姉も高校の時からそういうのに興味があって、自分で自然保護の活動をインスタグラムとかを活用して始めてて。最初は大学には行かずに、そういう活動とかを一年していた姉を見ていたので、もともと自然に興味が湧いたのはあって。
　意識の変化で言うと、秋田で自然保護とかそういうことの重要性が学べば理解はできると思うんですけど。例えば牧場で働いてみたりだとか。あとは無農薬・有農薬の農家さんなどをお手伝いする機会も多かったんですけど、実践することの大変さはすごく感じました。

名取：現場を見たってところでは、マレーシア行った時に山登ったり、キャンプしたりしたじゃん。で、そこで働いてる人とか、住んでる人たちを見てきたと思うんだけど、それでなんか意識の変わったところとか強くなったところとかってありました？

鎌田：あ、そうですね。ぜひマレーシアでの体験も聞きたいですね。

川島：聞きたい聞きたい。

高橋：そうですね。マレーシア・・・なんでしょう。

やっぱり、どういう行動をすれば、環境・自然にとっても、人にとってもいい…っていうのは結構…概念的にはわかると思うんですけど、そうじゃなくて、やっぱりなんか長期的な？視野をみんなで共有することの難しさだったり、あとはそれを実際に行動に移していく難しさとか、そういうのは（感じました）。

名取：はい。まあ、ちょっと前まで行ってたから、何かあったかなというのは、やっぱり日本と違うところでいろいろ見れたのもあったのかなと思って聞いてみました。

その辺、去年二年前でしたっけ？去年でしたっけ、志帆も参加しましたけど。何かあります（笑）？

伊藤：なんかある（笑）？そうですね…。

最近マレーシアも含め、この前、奄美大島行ってたりとか、そういう現場を見せていただく機会が多くて、意外とどこの現場でも共通して課題となっていることもあったり。その現場特有の問題があったり、そういうところが見つけられるのは、国をまたいでも共通の課題が見つかったりするのは、学ぶ立場としてすごく面白いなと思ったり。

でもいろんな現場を見てきて、いろんな課題を聞いてきたからこそ、それがこう積み上げになっていって、奄美大島に行った時に秋田の話ができたりとか。マレーシアの事例が共有できたりとかってするのは、すごく自分の中で知識として、経験として積み上がっているのはすごく感じてます。

奄美大島も人が足りなくて大変だって言ってました。

鎌田：そこはもう秋田と同じですね。

伊藤：秋田もそうでしたっていう話をしてきました。

（4）秋田県の大学の授業で八郎潟・八郎湖について学ぶことは重要だと思いますか？（村松先生）

高橋：私も国際教養大学で八郎潟について学ぶことは重要だと思っていて、やっぱり秋田について知るっていうことと、秋田の人が大切にしてきたから、今まで（続いて）あるっていうことがすごい大きな意味を持っていると思うので、そこについて知ることはすごく秋田に住んでいる身として大事かなって思います。

どんな内容がいいかといったら、志帆さんとか美桜が言ってたように、私も本当にいろんな分野に興味があるので、他の AIU 生も結構そういう方が多いと思うので、本当にいろんな分野から八郎潟について知識を深めたりすることと、フィールドワークを行って、実際の現場を見て、体験的に理解することがすごい重要かなと思っていて。その時に、例えば他の大学、県立大とか美大とかそういう方との交流があって、それぞれの分野からの視点とか、意見交換とかができたら面白そうかなと思いました。

村松：多様な視点から知識について学ぶのと並行して、フィールドワークをしていろんな視点、いろんな専門で関心を持って勉強している学生とも一緒に交流できればもっといいだろうっていうことですね。

高橋：はい、そうです。

村松：なるほど、そうですよね。
　皆さんにこれまでお話伺ってて、**机上の話っていうか知識だったことが、フィールドに行ってみたら「あ、こういうことか」って腑に落ちたりとか、より実践的なものになっていったり**とかっていうのをおっしゃてたんですけど。八郎潟・八郎湖についての授業でも、そういうような取り組みがあると嬉しいなっていう感じですかね？

高橋：そうです。

村松：ありがとうございます。
　ちょっとずれるんですけど、最後に生き物についての質問で、大学に入ってから微生物レベルとか生態系っていう意味で、植物とかを含めて、いろんな生き物に触れる機会が欲しいなと思ったことはありますか？

高橋：そうですね。**生き物は本当に動物とかも大好きなので、それで牧場のバイトを始めたというのもありますし。あとは直接的な関わりではなくても農家さんのお手伝いをする中で、熊との関わり方についてちょっとお話を聞いたりとか、そういう間接的な機会も結構面白かったです。だからもっとそういう機会が増えたらいいな**と思います。

村松：私は個人的に教養大のある雄和の辺りに、週に１回ぐらい行くことがあって。先ほど八郎湖とはちょっと距離があって、活動が難しい時もあるっていうようなご意見もありましたが、雄和のあたりで生き物に触れ合ったりとかすることができそうだなとか、観察したりできそうだなっていう場所とかはありますか？

高橋：生き物っていうのは野生の生き物とか、そういう形でしょうか？

村松：そうですね。田んぼにいる生き物の観察とか、もうちょっと林に入ってっていうところでも（構いません）。

高橋：そうですね…。確かに近くに森もありますし、田んぼもちょっと行けばありますし、そういうところかなと思います。どうなんでしょう。

村松：そうだよね。他のお二方どうですか？なんか雄和の辺りに、ここだったらみたいなとこって思いつきますか？

伊藤：うーん…大学の裏の林と、あと中央公園の…あ、でもあの辺あんまり生き物いないかもしれない。中央公園の外周とか歩けるところがあって、そこからちょっと行ったところに橋を渡っていって、全然整備されてない道みたいなところがあってね。あそこだったらちょっと生き物いますかね？

川島：あるある。

伊藤：どうですか先生？

名取：うん、いると思いますよ。熊も（笑）。

伊藤：まあ出たら困りますけど。

村松：熊も。そうなんですよね。ちょっと不安ですよね。

伊藤：でも、ちっちゃい生き物とか虫とかはめちゃめちゃ大学にいて、よく私もカエル捕まえたりバッタ捕まえたりしてるので、そういうのだったら結構身近にできるのかな、と。

川島：あ、そうですね。

伊藤：かなり限られると思いますけど、種類とか。

村松：ちなみに、八郎湖に行くのと大森山動物園に行くのとだったらどっちの方が簡単だなって感じますか？

伊藤：行ったことないです。大森山動物園。どっちが近いんですか？

名取：動物園の方が近いけど。

鎌田：美大の近くですね。

村松：あ、それが一番わかりやすいですね。

今後は県立大の学生を中心にではあるんですけども、生き物に触れる機会を学生に提供する、みたいなことをやれたらいいなと思ってて。八郎湖にフィールドワーク的に観察に行くっていうのと、あとは動物園で行動観察してみるっていうのをやってみたいなと思ってて。どのぐらい行くのにしんどいなと思われるのかなっていうのを、ちょっとうかがってみたいという質問でした。

鎌田：車無いと厳しいですよね。本当にすごいところにありますもんね、教養大も。

村松：以上です。ありがとうございますはい。

鎌田：あ、よろしいですか？なら、私からちょっとだけ突っ込んで聞いてもいいですか？
さっき高橋さんが他の教養大の学生さんにとっても、いろんな分野から八郎湖に理解深めてもらえたらいいんじゃないか、みたいな話があったと思うんですけど。教養大生って半分が留学生なんですよね？

川島：1/4 です。

鎌田：1/4 か。留学生がとても多いっていうことなんですけど、皆さんが普段留学生の人たちと接する中で、八郎湖の中でどういうところが、留学生の人たちにとって興味を持ってもらえそうなところだと思いますか？なんかキーワード的なのでもいいんですけど。なんか普段環境の話とかをする機会があれば、どういう分野に興味持ってるか、とかない？

伊藤：なんか留学生も本当興味が結構様々なんですよ。必ずしも環境問題に興味を持ってる学生が多いってわけでもなくて。どちらかというと、それよりかはわざわざ秋田の大学に来てるぐらいなので、田舎の暮らし方とか日本の伝統的な暮らし方とかに興味を持ってる学生の方が多い印象なので。
八郎湖に絡めるんだったら佃煮の話とか、あとその辺の郷土料理の話とかを混ぜて地域の人とも話せるよみたいなところで売り出しをすれば。留学生だから。

鎌田：あー。もういっそ、秋田弁講座とかやる？「へば！」とか言って（笑）。

伊藤：そうそう。そういうのの方が受けるんじゃないかなと思います（笑）。

川島：え、めっちゃいいと思う。

鎌田：なるほど、なるほど。わかりました！日本の伝統文化の方ですね。じゃあ、今度佃煮の話とかすればいいのか。食べてもらって。

伊藤：普通にいいと思います。

川島：志帆さんに加えてなんですけど、やっぱり稲刈りとか日本や秋田でしかできないことに興味を持つ留学生が多いと思うので、田んぼに行く機会とか。あとさっき…この一年の活動で湖北邸（三種町）の古民家で集まったみたいなのも、古民家も結構いいなっていうか、日本の伝統的な家っていうところで、なんか面白いんじゃないかと思うんです。

↑2024/2/3 湖北邸餅つき

鎌田：ああ、はい。去年あそこの湖北邸で、２月に餅つきやってました。そういうのに来てもらえたらいいかもね。地元の人たちも集まるし、参加してくれたら喜ぶ気がしますね。

ありがとうございます。とても参考になりました。

【『３．フリートーク「はちプロ学生部の今後の展望」』結果】

鎌田：残り時間もわずかっていうところではあるんですけど、ここからは藤山君も入ってもらっていろいろ話してくれればと思います。はちプロ学生部の今後の展望として、こうなってほしいとか長期的な目標でもいいし、来年こういうのやりたい、またはやってほしい、とかを話してもらえればなと思ってました。

その前にせっかくだから藤山くん、ここまでずっと黙って聞いててもらったわけだけど、ここまでお話聞いてきて、なんか聞きたいこととか無かった？

藤山：はい、そうですね。まあ感想になってしまうんですけれども。

先月も（県立大・美大生インタビューに）参加したんですけれども、やっぱり出てくるワードとかはやっぱりちょっと違うな。っていうのは感じました。

あと、去年（のインタビュー）も参加したんですけど、去年は虫ボーイズが参加していました。去年からこれまで３回参加したんですけど、３回とも全然違うんですよ。それがすごく面白かったなと感じますね。

今回は国際的なこととか、もうちょっと広い分野でのことが多いなっていう印象でしたね。先月（県立大・美大）は参加者全員が秋田県出身者だったってこともあって、結構狭い中でどう貢献していくかみたいな、そういう。「秋田県どうすればもっと活性化するのか？」みたいなワードが出てきたんですけど、今回は広い分野でどう伝えていくかって、そういうようなことが違うんです。それもすごく良かったかなと思いました。

鎌田：ほうほう。面白いですね、それは。

　じゃあ、せっかくだから藤山君、去年の県立大・美大のインタビューはなんか違いとして、どういう話だったと思う？

↑2024/2/8 学生部インタビュー
こちらで閲覧可能↓

藤山：はい。そうですね。去年は虫ボーイズが結構虫のことをズバズバ話して、それについて美大生たちが圧倒されて「へー、へー、そうなんだ」って、そういうような感じだったな、というのは覚えています。

伊藤：そんな気がしますね（笑）。

鎌田：かもしれないな（笑）。なるほど。

藤山：結構ずっと、知識を県立大生が、美大生に振りかざして、っていう印象でした。

※個人の感想です

鎌田：いい意味でも悪い意味でもオタクだからね、あの子達。はい、ありがとうございます。

　じゃあ改めてこの話題なんですけど、来年度っていうか、今後の展望としてこんなことあったらいいなみたいな意見を集められたらなと思うんですけど、いかがでしょう？

伊藤：とりあえず教養大の学生部としては、人にもっと参加してもらって、私も廣田（もう一人の４年生メンバー。今回は都合が合わず不参加。）も卒業しちゃうので。次の世代に継いでいくというところで、美桜と咲にはここにもいてもらってますし、特に頑張ってもらいたいな！とプレッシャーをかけておきつつ（笑）、あと名鳥先生にもどんどん授業に入ってきた学生たちを巻き込んでもらえたら嬉しいなと思います。１つ目として、はい。

鎌田：ごめん。ちょっと脱線するんだけど、伊藤さんって４月からどこに行くことになったんですか？

伊藤：まだ一個合否が出てないんですけど、とりあえずミシガン大学から合格いただいたので、おそらく９月からアメリカのミシガンにいると思います。それまでは IUCN-J でのインターンを引き続き頑張るので、しばらく東京とか埼玉にいます。

鎌田：ごめん。これ最初に聞いとけばよかった。

話を戻します。今後こんなことをやったらいいな、できたらいいなみたいな。

藤山：はい。交通手段を何とかしてもらいたいですね。

鎌田：具体的ですね。

藤山：ニュースで今やってたんですけど。教養大生の交通手段が結構苦しいっていう意見をいろいろ聞いていますので、県立大生の中でも免許を取ってる学生が結構いると思うので、その方が迎えに来て参加できないだろうかっていうのはすごく考えています。

鎌田：ちなみに藤山君は、卒業後もはちプロの会員になるって言ってくれてて。これから社会人になって大変だと思うんだけど、なるべく参加したいと言ってくれています。

じゃあ活動の時、自分が来れる時は車出してもらったりしてもいいのかな？

↑12/5 旧湖岸 WS ふり返り会

藤山：あの、余裕がある限りは。はい、そうですね。

鎌田：まあそりゃそうでしょうね。よし、言質取ったからね（笑）。よろしく。

藤山：はい（笑）。

鎌田：さて、どうでしょう？何かこんなことできたらいいな、みたいな。別に話したからやんなきゃいけないとかいう話じゃないですからね。妄想的な話でもいいですけど、こんな風になったらいいな、みたいな。

川島：いいですか。私がはちプロに入るきっかけになったのが IUCN-J のワークショップだとさっき言ったと思うんですけど、結構あのワークショップは門が広いというか、参加しやすかったなっていうふうに思ってて。だから似たようなワークショップを現地開催して、そこをファーストステップにして、新入生とかも来てもらったりとか、あと県立大・美大とかの人とも話すきっかけになればいいんじゃないかと。

名取：参加しやすかったのってなんでですか？

伊藤：確かに気になる。

川島：距離が近かったのと。あとは、知ってる人がいる、とかかな。でも一番は多分距離（笑）。

まあ、あとは前提知識が必要ない、堅苦しくないなっていうのがワークショップの紹介文からわかったから。

↑10/12 ブナの木塾はちリバ

伊藤：そう言ってもらえるのは嬉しいですね。

はちリバ（県立大生と美大生の共同開発ゲーム教材）、教養大でやりませんか？

鎌田：お。うちはやりたいって言ってもらって、場があればやりますよ。

日本語でよければですけど。

伊藤：イベントであれば別に日本語でも問題ないので、はちリバやりましょう。

県立大生も美大生も来れる人に来てもらって、みたいにやればすごい参加しやすいし、面白いかなと思ったり。ついでにモグリウムの宣伝もして、観察したい人をそこで集めるっていうイベントは？

鎌田：なんか虫ボーイズが新バージョンを作りたいとか言ってるから、彼らにちょっとやらせてみるっていうのもアリかな？やっぱ自分でやると理解が深まるって言うし、うん。

伊藤：うんうん。虫ボーイズの風を、AIU に（笑）。

鎌田：ぜひぜひ。

なんかこの間学会で発表してた先生が、若者の虫離れみたいな話をしてて。20 代の若い子たちに「虫に触れますか？」ってアンケートを取ったら 20%ちょっとぐらいしか触れないっていう結果を出してて。その 20%が周りに集まってるなあと思って。うちの周りはそんなことないんだけどな、みたいな感じでした。

伊藤：確かに。

鎌田：どうでしょうね。

さて、もうすぐ時間ではあるんですけれども、なんか他にこういうことできたらいいなあ、みたいなのってありますかね？高橋さんとか。

高橋：うーん…何かもう既にあるので言っていいのかよくわかんないですけど。虫ボーイズの方とかすごい面白そうなので、なんかそういう方とかと色々お話してみたいなって。

あとは子供たちとか自然の中でわちゃわちゃ遊びながら、生物についても、自然についても、理解を深められたら絶対楽しいだろうな、っていうのは思いました。

↑10/5 豊川生きもの調査

鎌田：なるほど、ありがとうございます。

やっぱり近い年代の先輩の話を聞くっていうのは、すごく中学高校生にとってはとてもいい経験ですよね。御所野学院高校の郷土学っていうのを担当したという話を最初にしましたけど、年の離れた私が八郎湖の話を色々するより、一番よく聞いてたのは、同校 OG の安藤さん（2023 年度インタビューで話を聞いたメンバー）の体験談なんだよね。やっぱり近い年代の人たちのお話っていうのを聞くのが一番参考になるんだな、っていうのをこの時の様子を見ててすごい思ったので。皆さん（学生部メンバー）にとってもいいし、高校生の子たちとかにとってもすごくいい機会になるんだろうなと思います。もしそういうことがやりたいということであれば、ぜひ一緒にやりましょうっていう感じです。紹介とかはできると思います。ネタ作ったりとかね。

ということで、12 時になりましたけれども。よろしければ村松先生・名取先生から一言ずついただいて終了にしようかなと思うんですけど、いかがでしょう？

村松：先ほど藤山さんもおっしゃってたように…私は２回インタビューに参加させていただいたんですけれども…それぞれトークの内容も違えば、大学ごとの特色っていうのも出てきていて。それを踏まえながら、さっきお話ししたような生き物を触れる機会の提供をしてみたいっていうので、そこのところにも色々活かせたらなと思いながらお話うかがうことができました。ありがとうございました。

鎌田：ありがとうございました。名取先生どうでしょう。

名取：はい。今日はこんな機会作っていただきまして、どうもありがとうございました。

まあ、多分参加してた学生みんな言ってたと思うんですけど。色んなことに関心があってっていうのは、関心を持つことはすごく大事で。また触れられる機会があるっていうのもすごく大事だと思うんですね。それで、はちプロの取り組み、学生部の取り組み、そのうちの一つで、ちょっと触るだけじゃなくて、少し深く入ってみると、また見方も色々変わってくると思うので、そんな場を提供できたらいいのかなと。次の活動をそんな風に意識していきたいなというふうに思いました。

それで、色んな経験があるのを色々並べてみるとか、志帆が言ってたみたいに、色々積み上がっていくっていうのが、うちの大学でよく言ってる学際性だとかリベラルアーツ。ただバラバラ揃えるんじゃなくて、並べて整理していくっていうことまでできるといいのかなと思うんで、こんな活動を軸にして展開していけたら、授業でやってることより、もっと身に付くことにつながっていかないかな、というふうに思う。今日そう感じ

たんで、そんな風に進めていけたらと思ってます。

　あと、虫触れない人多いんだなっていうのは意外と気付かないところでしたけど、まあ志帆なんかゴキブリ平気で捕まえてほっといたら食べるんじゃないかって勢いだった（笑）。

伊藤：食べれないです。ひどい（笑）。

名取：でもちょっと離れてみると、やっぱりそうですよね。虫触れない人は多いのかなと思うので、そんな**虫に触れる機会を提供できたらいいのかな**と思ってます。ここにいる人（学生）みんなが授業でやった“アイナチュラリスト”（動植物の観察記録を共有できるオンラインコミュニティ）をやらせると、みんなすごく喜んでいるんですね。大体そういう人しかコメント書かないんだとは思うんですけど、触れる機会を提供するっていうのが、触るきっかけになるっていうのもあると思うんで。そんな感じで**生き物だけじゃなく、歴史も見えるようになったり、人とのそこの生業を見るようになって、そんな機会につながっていける取り組みだと思う**んで、これからも一緒にさせていただけたらと思いました。

　またよろしくお願いします。

鎌田：ありがとうございます。こちらこそよろしくお願いします。

　ということで 12 時も過ぎたので、そろそろインタビューの方は終了にしたいと思います。伊藤さんは卒業するし、川島さんは留学中だし、高橋さんも近いうちにまた留学するんだろうし、藤山くんは社会人になる。皆さんそれぞれ新たなステージに行くと思うんですけれども、これからもまあ八郎湖を気にかけておいてくれたら。今、名取先生と自然共生サイトの件も色々相談しながら進めているところなんで、タイミングが合えば、ぜひまた活動に参加してくれたら嬉しいなと思っています。ぜひ来年度以降も皆さん頑張ってくださいってことで。

　インタビューの方はこれで終了にしたいと思います。皆さんどうも長時間お疲れ様でした。ありがとうございました。